

雲仙山系におけるイシサワオニグモの垂直分布

奥 村 賢 一

クモ類の垂直分布に関する調査はジョロウグモで比較的好く行なわれているが、それ以外の種ではきわめて知見に乏しい状態のようである。イシサワオニグモは山地を代表する美しいクモで、長崎県本土では雲仙山系と多良山系の標高の高い地域にのみ分布している。特に雲仙山系では標高 1070m の仁田峠付近において 7 月から 10 月頃にかけて数多く見られる。筆者は 2003 年から 2005 年にかけて雲仙山系のクモを調査するかたわら、本種の垂直分布の状況に興味を持ち、発見の都度記録をしておいた。その結果若干の知見が得られたのでここに報告する。

調査地域

調査は島原半島の中央部に位置する雲仙山系の全域でおこなった。1990 年からの噴火にともなう溶岩の噴出によって形成された平成新山（県内最高峰 1483m）周辺は、現在もお立ち入り禁止区域となっているため調査できなかった。

結 果

図 1 に示した地点において分布が確認された。今回確認できた中で最も低い場所は雲仙山系の北部に位置する吾妻岳登山道（700m）であった。しかしながら調査地全体をとおして標高 700～900m の間は散発的に見られる程度で、個体数は大変少なかった。最も多くの個体が見られたのは仁田峠周辺で、7 月下旬には多数の幼体が、樹間のみならず土産物店や公衆トイレなどの人工構造物にも網を張っていた。仁田峠から普賢岳に至る登山道の途中にはブナ、カエデ、ナナカマドなどからなる木本の林床にウンゼンザサの群落が発達している。10 月に訪れた際にはこのウンゼンザサに網を張っている成体が多く、人の目の高さよりも高い位置にいる個体はほとんどいなかった。風雨を避けるために低い場所を好むのかもしれない。一切経の滝（600m）～温泉街周辺（700m）と田代原牧場（600m）ではかなりの時間と労力を費やして探したが全く発見することができなかった。以上の結果から雲仙山系における本種の垂直分布の境界線は標高 700m 付近であることが示唆される。これまでに本種の垂直分布を示したデータとしては日本アルプスのものがあり、

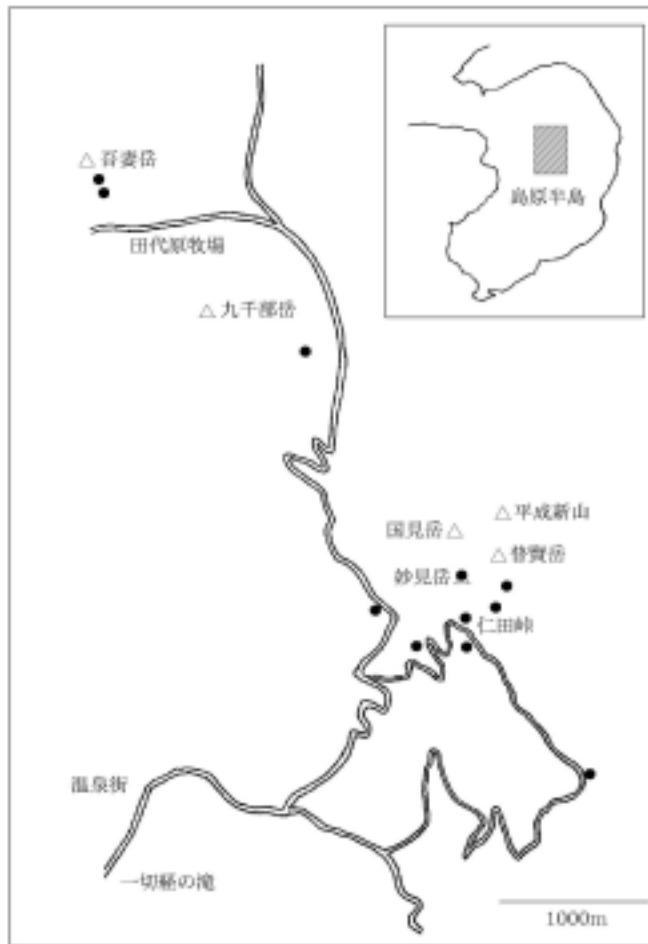


図1. 雲仙山系におけるイシサワオニグモの分布 (印)

1000m よりやや低いあたりから 1500m 付近まで生息することが挙げられている (千国, 1940)。雲仙山系での本種の垂直分布の境界はこれに比べるとやや低いようであるが, 比較的多く確認できるのは 900m 付近からであることから, 大きな違いはないのかもしれない。

参考文献

- 千国安之輔 1940. 日本アルプス山系の蜘蛛目録並に垂直分布. *Acta Arachnol.*, 5: 224-239.
- 池田博明ほか 2000. ジョロウグモの垂直分布調査. *Kishidaia*, 79: 43-53.
- 池田博明・山北高等学校自然科学部 2000. ジョロウグモの垂直分布とその要因を探る. *Kishidaia*, 79: 54-62.
- 大利昌久 1963. クモの生態観察日誌 (1). *Atypus*, 28: 13-17.
- 徳本 洋 1999. 石川県金沢市近辺各山地におけるジョロウグモの垂直分布. *Kishidaia*, 77: 61-68.

コガネヒメグモの飼育観察

(新海栄一氏による報告の抄録)

新 海 明

1966年(昭和41年)に発行された私立海城学園高等学校の生物部誌「カタツムリ15号」(図1)を再読する機会があった(表紙は「昭和40年度版(1965)」とあるが,奥付は「昭和41年5月20日」となっており,これが妥当と判断した)。全52ページ中の35ページおよそ70%がクモに関する報告だった。当時の生物部クモ班の面々が執筆した成果であるが,その中心人物が新海栄一氏である。私自信もこの時に中学校1~2年生として同校に在籍していたはずだが,残念ながら活動らしきものは皆無であった。もっともそのはずで,記憶を蘇らせれば同級生の部員を集めては野球やサッカーに興じてばかりいた。

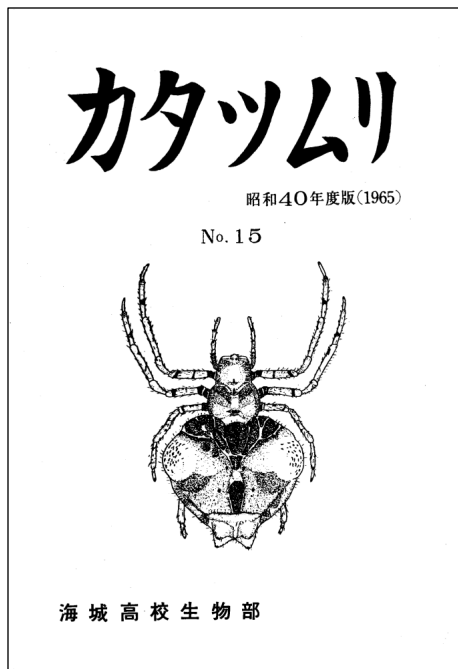


図1. カタツムリ15号表紙

報告の多くは東京を中心とした日本各地のクモの採集記録だったが,この中に混じって「クモの飼育観察」と題するものが目にとまった。読んでみるとコガネヒメグモの出のう直後から1ヵ月ほどの飼育記録だった。特に,出のう直後から腹部の模様の変化を脱皮ごとに詳細に追いつけ,極めて精巧なスケッチを残していた。また,「子育て」とも思われる親子間の行動も記録していた。これらの報告は現在でも非常に貴重な観察記録と思われるものであった。しかしながら,「カタツムリ」が世のクモ研究者の目に触れることは稀であろう。ここでは,抄録として紹介しコガネヒメグモの研究資料として供したい。

再録を許可していただいた新海栄一氏に感謝申し上げます。

クモの飼育観察（コガネヒメグモの飼育観察）抄録

1. 親グモの形態及び色彩

八木沼図鑑からの引用．体色変化についての記載．

2. 採集時の様子

卵のう（図 2 - F）と親グモは 1965 年 8 月 24 日に三峰山（埼玉県秩父市）で採集．

3. 飼育観察

卵のうと親グモの観察

8 月 30 日出のう。「穴の大きさから推測すると親が開けたものかも知れない」．子グモ 71 頭。「腹部は薄いダイダイ色をしておりやはり斑紋はない，ただし例外として全体白色のものが 2 頭いた」「体長は 0.6~0.7mm」．「脱皮は卵のう内では 1 回も終わっていなかった」．腹部は「第一回脱皮前では球形をしている」（図 2 - A）．

9 月 5 日第 1 回脱皮。「腹部は後端が糸疣を越えて後上方にわずかに出て来て，黄金色のうろこが現われる，胸板は黒色，歩脚は黄色で第一脚の斑紋が現われているのと無いものがある」．

9 月 8 日餌捕獲を初めて観察。「糸の一本に蚊がかかると，親グモがすばやく降りて来て獲物に糸を巻き始めると同時に糸を少し降下し親グモがもどるのを待つ，親グモは約一分間糸を巻いて，動かなくなると糸疣に着けて上部に運んで来る．すると上に待機していた子グモはしだいに親グモの周囲に集まって行き，親グモが獲物に毒を注入した後，獲物が非常に弱ってからそれに咬みつぎに行く，数頭の子グモが集まって来ると，親グモは獲物より離れて最上部に移動しそこに停止する」．

子グモ 11 頭の観察

採集時にすでにいた子グモの観察．

8 月 28 日「三峰採集の 5 頭が脱皮を行った（第二回か三回と思われる - 略 - ）」「色彩の記録をしておく」（図 2 - G）．

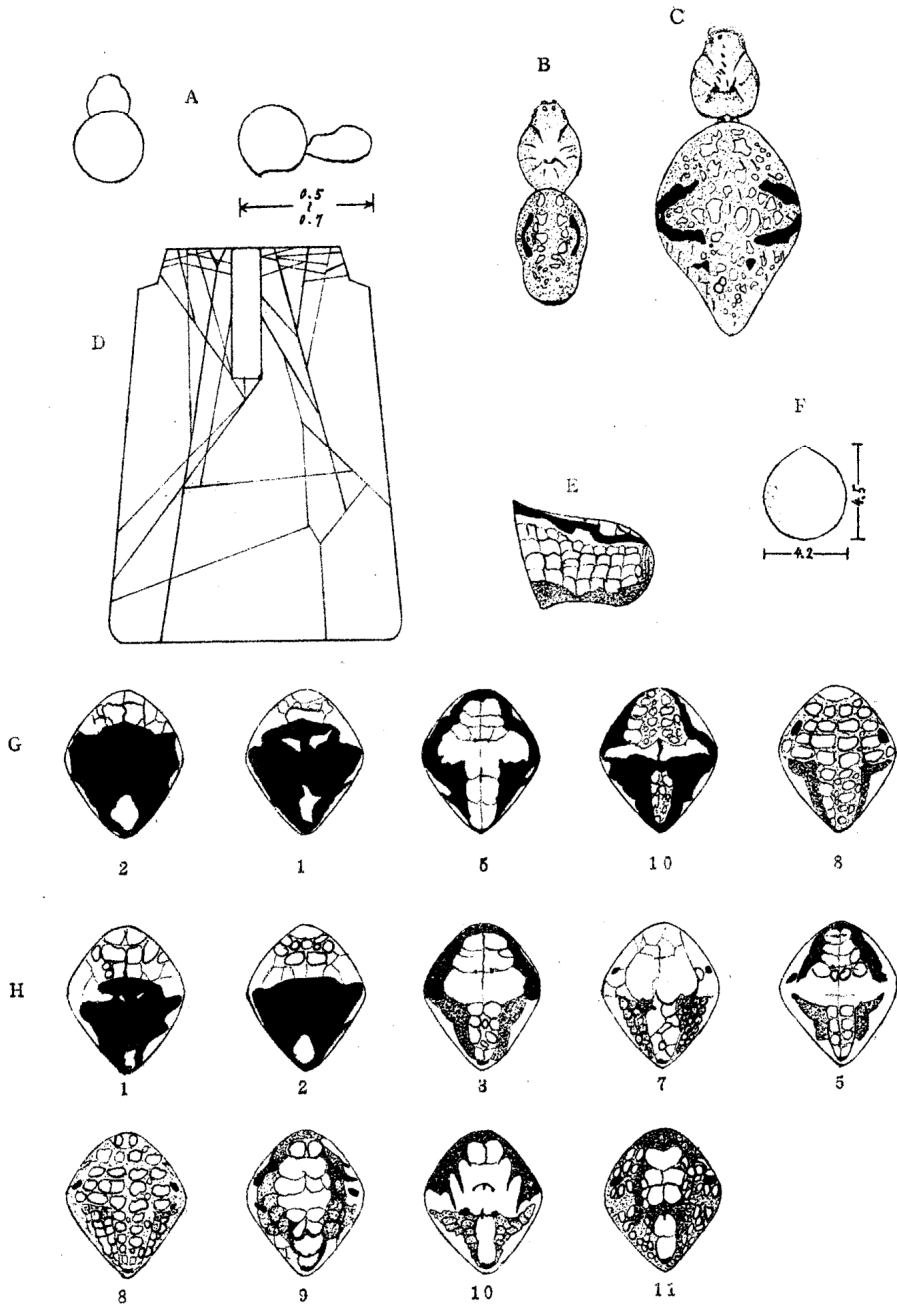
4. 雌雄の相違と脱皮回数

雌雄の相違

8 月 28 日の脱皮後に明瞭．雄の触肢の先端がやや大きくなる．色彩からの雌雄の区別はできなかった．

脱皮回数

「雄の脱皮回数は，成体の雄と第二回（あるいは第三回）脱皮後の雄の体長との比較をしてみると，第二回（あるいは第三回）脱皮後の雄の触肢の様子から判断して，四回か五回の脱皮をすると考えられる」「雌の方はそれ以上としか言えない」．



図の説明（原文のまま）

A．第一回脱皮前の子グモ B．成体の雄 C．成体の雌 D．空ビンの中に張った網

E．G-5のクモの側面 F．卵のう G．8月28日に調べた腹部の模様

5のクモと同様の模様のクモ=3, 4, 6, 9 10のクモと同様の模様のクモ=11, 7

H．9月7日に調べた腹部の模様

3と4は同じ模様 7と6は同じ模様

私をもっとも注目したのは、飼育観察の9月8日の記録だった。「吐き戻し給餌」の観察こそしていないが、これは明らかにコガネヒメグモの子育て行動の一部を記載したものである。また、卵のう内での脱皮がないことや出のう直後の幼体の色彩を事細かく記載している点も注目に値する。特にその図の描写には感嘆した。この報告を書いた当時の新海栄一氏は高校1年か2年生のはずである。詳細な観察記録は誰がいつ行なおうとも、永遠に「色褪せない」ことを物語っている。そして、クラブ活動などを通して中学生や高校生の行なった(別に大人がやったって構わないが)飼育観察などの記録は一次資料として極めて貴重なものとなることを証明しているように思えた。

引用文献

新海栄一 1966, クモの飼育観察. カタツムリ (海城高校生物部誌) 15: 47 - 51.

造網場所から探るジョロウグモの産卵部位選択

西 野 真由子

1. はじめに

ジョロウグモ *Nephila clavata* は、産卵部位を決めるまでに幹や枝を何回も上下し、長い時間をかけ樹木を歩き回る（千国 1983）。同様に観察したコガネグモやナガコガネグモが、網から産卵部位まで、短時間にほぼ直線的に移動したのとは対照的である。まず造網場所の樹木を歩き回るので、ジョロウグモの産卵部位を検討する上で造網場所は重要と考える。

ジョロウグモの産卵部位選択については、いくつかの報告がある。しかし松田ら（2002）は産卵後の卵のうのみの観察であり、徳本（1981）も個々のクモの造網場所は観察していない。佐藤（1997）は造網場所も観察しているが 15 例の報告である。今回は主に植物への産卵について、造網場所であることのみで選択しているのか、他の要因、たとえば樹種による違いはあるのかなど、造網場所に注目してジョロウグモの部位選択を検討する。

2. 方法

（1）対象と方法

1994 年から 2005 年まで、市街地の庭（大阪府堺市）で産卵したのべ 660 頭のジョロウグモについて、産卵部位、卵のうの大きさ・高さ、造網場所（産卵前の網の中心）から卵のうまでの直線距離、造網場所を記録した。造網場所は外枠糸を引いた樹木（もしくは人工物）を、1 頭につき最大 2 種（3 種以上の樹木間に造網した場合も主な 2 種）選んだ。

15 頭以上造網した常緑樹 7 種、落葉樹 6 種について産卵数 / 造網数、葉の大きさ・厚さ・角度、幹の直径を比較した。葉の大きさはノギス、厚さはマイクロメーターで測定した。角度は葉脈を中心として水平を 0 度、上向き（型）であれば +、下向き（型）であれば - とし、三角比で求めた。幹の直径は幹に産卵しなかった樹木もあったので、すべて地上 1m で測定した。葉と幹の計測値は 5 箇所測定し、平均を求めた。

(2) 観察場所の植生

下記でアセビ以外は6頭以上造網した樹種

市街地の庭木であるので剪定してある。常緑樹はウバメガシ(10本),アセビ(6本),カシ(5本),ツバキ(5本),キンモクセイ(3本),サザンカ(2本),ナンテン・サンゴジュ・タブノキ・マキ・マツ各1本など。落葉樹はドウダンツツジ(36本),イロハモミジ(5本),マンサク・ウメ・フジ・ハナミズキ・カリン・カシワ・ケヤキ・ツツジ各1本など。高さはウバメガシ・アセビ・ツバキ・サザンカ・ナンテン・サンゴジュ・マツ・ドウダンツツジ・ツツジは1-2m,他は3-8mである。

3. 結果

(1) 産卵部位,卵のうの大きさ・高さ,造網場所からの距離

産卵部位は常緑樹(針葉樹を含む)15種,落葉広葉樹26種,人工物13箇所,内訳は常緑樹の葉309個,落葉広葉樹の葉173個,常緑樹の幹10個,落葉広葉樹の幹61個,人工物107個だった。卵のうの大きさ(横×縦)は1995年,1996年,1998年の90個を測定した。最小は8×13mm,最大は40×60mm,平均20.8×30.7mmだった。卵のうの高さは135.0±69.0cm(平均±標準偏差),100cm以下237個,101-150cm181個,151-200cm150個だった。造網場所から卵のうまでの距離は164.0±111.7cm,100cm以内203個,101-150cm195個,151-250cm181個で,87.7%のクモが250cm以内に産卵した。産卵部位別の卵のうの高さと距離は表1のとおり。卵のうの高さは葉と幹では有意差がなかったが,人工物は有意に高かった。

表1.産卵部位別の卵のうの高さと距離 平均±標準偏差

	A 常緑樹の葉	B 落葉樹の葉	C 幹	D 人工物
卵のう数	309	173	71	107
高さ*	126.0±46.2	123.8±74.0	120.1±66.4	188.4±90.3
距離	140.6±90.2	157.4±88.4	163.5±85.2	242.6±168.7

*ANOVA: A,B,C 3群でF値0.242 p=0.785 A,B,C,D 4群でF値28.89 p<0.001

(2) 造網場所と産卵部位

造網場所は常緑樹16種,落葉樹26種,人工物7箇所,内訳は常緑樹179頭(常緑樹-人工物25頭を含む),常緑樹-落葉樹240頭,落葉樹225頭(落葉樹-人工物34頭を含む),人工物(軒と塀など)16頭だった。660頭のうち403頭(61.1%)が造網場所に産卵した。6頭以上造網した20種(常緑樹,落葉樹各10種)にはすべて2頭以上が産卵した。造網場所に産卵したクモの割合は常緑樹64.8%(116/179),常緑樹-落葉樹70.0%(168/240),落葉樹48.0%

(108/225), 人工物 68.8% (11/16) と造網場所により有意差があり, 常緑樹 - 落葉樹では落葉樹を選ぶクモが少なかった (表 2) .

表 2 . 造網場所に産卵したクモ

	常緑樹	常緑樹 - 落葉樹	落葉樹	人工物	合計
造網数	179	240	225	16	660
造網場所に産卵	116	168	108	11	403

²検定: χ^2 値 25.66 $p < 0.01$ 内訳は常緑樹 127 頭, 落葉樹 41 頭

(3) 造網数, 産卵数と葉・幹の形態

表 3 に造網数 15 頭以上の樹種の造網数, 産卵数と葉や幹の計測値を示す. 産卵数/造網数は常緑樹では 0.54 - 1.89, 落葉樹でも 0.34 - 1.29 と樹種によりばらつきがあった. 葉の大きさ・角度と産卵数は明確な関係がなかったが, 幹への産卵の比率 (幹の産卵数/産卵数) が 50% 以上だった 3 種では葉の厚さが 0.20mm 以下と薄い傾向があった. すべて葉への産卵だった 4 種は幹の直径 5cm 以下だったが, 直径 6cm 以上の 5 種でも幹への産卵の比率は 10% 未満だった.

表 3-1 . 15 頭以上造網した常緑樹

a 造網	b 産卵	b/a	葉の大きさ	厚さ	角度	幹の直径
ツバキ (ツバキ科ツバキ属) <i>Camellia japonica</i>						
75.5	143	1.89	45.8 × 73.2	0.485	-12.2	3.28
キンモクセイ (モクセイ科モクセイ属) <i>Osmanthus fragrans</i> var. <i>aurantiacus</i>						
55.5	54(1)	0.97	33.4 × 85.8	0.403	23.5	7.16
カシ (ブナ科コナラ属) <i>Quercus myrsinaefolia</i>						
40	26(2)	0.65	56.0 × 174	0.270	20.2	13.21
サザンカ (ツバキ科ツバキ属) <i>Camellia sasanqua</i>						
23	17	0.74	22.2 × 49.6	0.334	19.3	4.65
ナンテン (メギ科ナンテン属) <i>Nandina domestica</i>						
20.5	11	0.54	20.0 × 61.4	0.215	16.6	1.40
サンゴジュ (スイカズラ科ガマズミ属) <i>Viburnum odoratissimum</i> var. <i>awabuki</i>						
17.5	23(1)	1.31	28.4 × 56.8	0.251	23.1	3.09
ウバメガシ (ブナ科コナラ属) <i>Quercus phillyraeoides</i>						
17	11(1)	0.65	37.0 × 62.6	0.267	36.1	9.26

表 3-2 . 15 頭以上造網した落葉樹

a 造網	b 産卵	b/a	葉の大きさ	厚さ	角度	幹の直径
イロハモミジ (カエデ科カエデ属) <i>Acer palmatum</i>						
102	46(29)	0.45	67.2 × 54.6	0.118	0	9.23
ドウダンツツジ (ツツジ科ドウダンツツジ属) <i>Enkianthus perulatus</i>						
50	27	0.54	14.8 × 28.2	0.189	17.1	1.88
マンサク (マンサク科マンサク属) <i>Hamamelis japonica</i>						
31.5	26(1)	0.83	70.0 × 79.0	0.277	-1.33	7.38
ウメ (バラ科サクラ属) <i>Prunus mume</i>						
28	22(17)	0.79	47.6 × 85.8	0.204	10.5	7.32
フジ (マメ科フジ属) <i>Wisteria floribunda</i>						
23.5	8(4)	0.34	34.0 × 93.8	0.166	37.9	14.48
ハナミズキ (ミズキ科ヤマボウシ属) <i>Benthamidia florida</i>						
17	22(2)	1.29	63.2 × 110	0.202	11.8	12.41

表 3 注) a 造網...2 種類の樹木間に造網した場合,それぞれ 0.5 頭と数えた

b 産卵...他の樹木に造網したクモも含む () は幹の卵のうの内数

葉の大きさ...葉の幅 × 長さ mm 葉の厚さ...単位 mm

幹の直径...地上 1m で測定 単位 cm

4 . 考察

(1) 卵のうの高さ

今回の卵のうの高さの平均は 135.0 ± 69.0 cm であったが,表 1 で有意差のあった人工物を除き,常緑樹の葉・落葉樹の葉・幹の計 553 個では 124.6 ± 58.8 cm,中央値は 120cm となる。これは市街地の庭の主に葉に作られた卵のうを観察した佐藤 (1997) の報告 (平均を計算すると 127.7cm,中央値 125cm) とほぼ一致するが,林における樹皮の卵のうを観察した松田ら (2002) の報告 (中央値 1.8m) よりは低い。今回は葉の卵のうが圧倒的に多かったが,葉と幹で卵のうの高さに有意差はなかった (表 1) ので,この違いは葉と樹皮 (幹) の違いではなく,庭木と林の違い,つまり観察地の樹木の高さの違いと考える。

徳本 (1981) はニセアカシア林の観察で,産卵部位が成体の造網位置より低下する傾向が顕著と述べ,佐藤 (1997) は産卵部位が産卵前の網より高かったのは 15 例中 2 例のみと報告している。しかし個々のクモでは,卵のうの高さと造網位置は直接関係しないと考える。しおり糸を引いているとはいえ,樹木の先まで上って根元まで降りることを 4 - 5 回も繰り返した後に,クモが造網位置 (高さ) を覚えていたとは考えにくい。ただし,ジョロウグモは樹木の頂上には産卵しなかった

が、造網は樹木の頂上付近にもよく見られたので、結果として産卵部位が造網場所より低くなることが多いのは十分予想できる。ジョロウグモが樹木の頂上まで歩きながら、頂上には産卵しなかった理由としては、風雨に曝されやすいためと推測する。

(2) 樹種の偏りはあるか

産卵部位は樹木 41 種、人工物 13 箇所と多岐にわたったが、歩いて移動することもあり、造網場所の近隣(2.5m 以内に 87.7% が産卵)に集中した。全体の 61.1% のクモが造網場所に産卵したこと(表 2)、造網数 6 頭以上の樹木 20 種すべてで複数のクモが産卵したことから、ジョロウグモの産卵部位の第 1 選択は造網場所と考える。しかし造網場所であることのみで選択しているのであれば、産卵数/造網数はどの樹種でも同じような値になるはずであるが、0.34(フジ)から 1.89(ツバキ)までばらつきがあった(表 3)。

松田ら(2002)はサクラ属中心の林における観察で、ジョロウグモの産卵していた樹種に有意差はなかったとしている。今回は庭木のため剪定してあり、高さも違いがあったので、樹種別に有意差検定を行わなかったが、産卵する樹種には偏りがあると考え。なお佐藤(1997)は葉に産卵した 13 例のうち落葉樹は 1 例だったと報告しているが、今回もクモは落葉樹を選択しなかったように見える(表 2)。ところが樹種別に比較すれば葉に多く産卵した落葉樹もあった(表 3)ので、常緑樹か落葉樹かは選択に関係しないと思う。

(3) 葉か幹か

徳本(1981)はニセアカシア林の観察から、卵のうは樹幹に産みつけられるのを原則とするが、林縁部では適当な太さ(直径 6 - 10cm)の樹木が少ないことから、産卵場所にあぶれた雌が葉に産卵すると思われると述べている。今回の最小の卵のうは 8×13mm だったが、卵のうは平面に作られるので、直径 2cm 未満だったナンテン・ドウダンツツジの幹には産卵は困難と推測する。しかし一方で、直径 6cm 以上の樹種 8 種中 5 種で幹への産卵の比率が 10% 未満だった(表 3)ことから、幹の太さだけで葉か幹かという選択は説明できない。

今回は葉への産卵が多く(表 1)、好んで葉に産卵した例もあったと予想したが、葉の大きさ・角度と産卵数との関係は明確ではなかった(表 3)。しかもすべて葉に産卵した 4 種は幹の直径が 5cm 以下で、細い幹を避けて葉に産卵した可能性を否定できない。また幹への産卵の比率が 50% 以上だった 3 種では葉が薄い傾向があったが、葉の厚さを部位選択の要因とすると、ほぼ同じ厚さだったウメとハナミズキで幹への産卵の比率が大きく違ったことが説明できない。さらに、葉への産卵数が多かったカシ(0.27mm)と少なかったウメ(0.20mm)の葉の厚さをクモが区別できたのかという疑問も残る。なお一般的に好適条件とは考えにくい薄い葉や、卵のうの平均(20.8×30.7mm)よりも小さかったドウダンツツジの葉にも相当

数のクモが産卵したのは、幹と違い葉は何枚か合わせる工夫で産卵できるうえ、あるとは限らない好適条件の樹木を求めて歩き回るのは、無防備で危険なためもあるだろう。

植食性昆虫の産卵行動では、化学物質で植物を識別していることが知られている（本田ら 2005）。今回は産卵部位が人工物も含め多岐にわたったことから形態のみ検討したが、部位選択の要因は分からなかった。今後は化学的要因や葉・幹の接触感覚（表面の微細構造）の検討、今回とは異なった生息環境（植生）での調査、人工物への産卵の検討などが必要と考える。要因が明らかになれば、どのような刺激で産卵行動が始まるかなど、産卵のメカニズムも明らかにすることができるかもしれない。

5. 結論

市街地の庭における野外観察で、ジョロウグモの産卵部位の第 1 選択は造網場所と考える。しかし産卵数/造網数や幹と葉の産卵数の比率は樹種により異なり、クモによる樹種や部位の選択が示唆されたが、葉や幹の形態からはその要因を明らかにできなかった。

6. 謝辞

研究内容に助言いただきました池田博明先生に深く感謝します。

7. 引用文献

- 千国安之輔 1983. クモの一生. 偕成社, 80pp.
- 松田久司ほか 2002. ジョロウグモの林内における産卵部位と付着物. *Kishidaia*, 83:3-7
- 徳本 洋 1981. ジョロウグモの林内における分布ならびに産卵部位選択. *Atypus*, 79:24
- 佐藤信治 1997. 庭にきた虫. 農山漁村文化協会, 189pp.
- 本田計一・村上忠幸 2005. ワンダフル・バタフライ. 化学同人, 237pp.

ジョロウグモ大爆発！

新 海 明

2004年の秋にジョロウグモが「消えた」ことを報告した（遊絲 15号）。1974年以来、毎年秋にジョロウグモの個体数を数え続けている房総丘陵清澄山での密度は、この年 0.24 頭 / 100m と過去最低を記録したのだった。

「今年はジョロウグモがたくさん見られるのでは」との情報は夏ごろから私の耳に入ってきた。9月に入ると外房安房小湊町の誕生寺に遊びに行った友人が「ジョロウグモだらけだった」と教えてくれた。どうやら、今年の秋はジョロウグモがかなり増えていそうだなとの印象が強くなり、9月下旬に予定していた清澄山での調査に期待が膨らんだ。

ところがである。夏休み明け頃からひいていた風邪をこじらせてしまった。初めの頃は「夏風邪なんて大したことはない」と思っていたのだが、少し良くなると夜の巷で遅くなり、翌日はまた不調となる、などを繰り返し風邪が一向に完治しない。さすがに下旬になると不安になってきた。23日に予定していた調査は、出掛けたのであるが駅に着くと悪寒を覚えた。「無理をせずに、すこし先送りにしよう」と自宅に戻った。翌週の30日は萱島先生の一周忌であり清澄山に行けない。仕方なく10月7日の土曜に行こうと決めた。

今までもっとも遅い調査日は10月10日だったので、「まあ、いいや」と納得させたのだ。それまでに時間も少しは良くなるだろうと。しかし、体調は少しも改善しなかった。周りからも風邪をこじらせて肺炎にでもなったんじゃないのど心配される有様だった。さすがに、不安になり意を決して病院に駆け込んだ。4日分の抗生物質をもらいせっせと薬を飲んで7日の調査に備えた。しかし、当日になっても症状は改善しない。とうとう8日のクモゼミも欠席する始末であった。9日の朝、まだ頭がすっきりせず寝床でぐずぐずしていると、電話が鳴った。相手は谷川さんだった。「俺、明日ヒマだから清澄山にジョロウの調査に行ってもいいよ」「確か一番遅い調査日は10日だったはずだから、間に合うでしょう」「せっかく30年も調査をしてきたのだから、中断したらもったいないよ」と、まったく「涙が出るほど」の嬉しい申し出であった。心苦しかったが有り難くご好意を受けることにした。

数日後、馬場さんと2人でやっていただいた調査結果が届いた。それを見てびっくり、清澄山のジョロウの密度は26.4頭/100mと1987年(28.1頭)以来の爆発ぶりだったのだ。2年前にはわずか0.24頭だったのが100倍以上に増加したことになる。これまでも、度々言及してきたことではあるが、ジョロウグモの個体数はかくも大きく増減するのである。そして、この現象は単にジョロウグモにとどまらずクモ類一般、ひいては生物一般にも及ぶ現象ではないかと私は睨んでいる。

「そんなことは当たり前だ」との印象をお持ちの読者もおられるかも知れない。しかし、「そんなこと」をデータとして具体的に示したものは極めて少ないのだと宮下さんから教えてもらった。アマチュアは「アマチュアとしてできること」がたくさんあるはずである。私たちの身の回りの自然現象に眼を配り、それを記録することから、その一歩が始まることを繰り返し呼び掛けたいと思う。そして、そんなささいな活動を大切なこととして受け入れて、応援してくださる仲間の存在にも大いに感謝したい。

参考までに、清澄山での33年間のジョロウグモの個体数密度の変化を図1に示す。

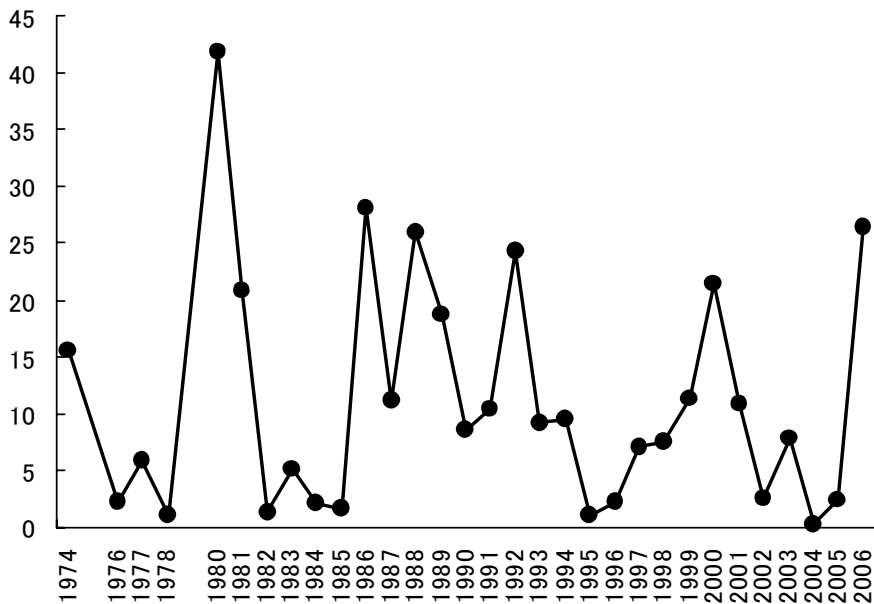


図1.

トゲグモの飼育記録から分かる事：成長と寿命

加 藤 む つ み

飼育記録は、その生物を知るための重要な情報が含まれているはずなのだが、報告される事の少ない記録である。その理由は、記録内容が繁雑になりがちで、まとめる事が難しいためと思われる。繁雑な記録のすべてを一度に報告する事は難しくても、一部だけならと思い、今回、1995年から2006年にかけて飼育したトゲグモのうち、成体まで育った49頭の飼育データのうち、成長と寿命に関わるものを報告する事にした。

材料および方法

飼育データは、1995年から2005年にかけて、丹沢地域11ヶ所・13回にわたり採集した卵のうから得た子グモを飼育した結果であり、飼育方法は、加藤(1997)に準じた。

結 果

表1は飼育個体の概要である。No.は飼育個体番号。出のう日がいっきり分かる場合はその日を、容器が同一で複数の出のう日を記録した場合は、記録の有る出のう日のすべてを示した。No.1~12の個体は、出のう時期が近いので、採集時に卵のうより出のうさせたものである。

成長期間は出のう日から最終脱皮日までにかかった日数である。出のう日が複数ある場合は、最初と最後の記録の中間日よりの日数とした。

寿命は前記の出のう日から死亡日までにかかった日数を示した。

卵のう採集日は春夏秋冬いろいろな時期にわたっているが、出のう日は2例(18番と34番)を除き、4月末から5月初旬であった。飼育して成体になった49頭のうち27頭がオス、22頭がメスであった。各令の期間や成長期間・寿命との関係については後ほど考察を行う。

表 1. 飼育個体の概要

NO.	卵嚢採集日	性	出のう日	死亡日	成長期間	寿命
1	2005/5/3		2005/5/3	2005/9/17	57	137
2				2005/11/11	120	192
3				2006/2/23	126	296
4				2005/10/11	78	161
5				2005/10/24	82	174
6				2006/1/22	125	264
7				2005/8/25	77	114
8				2005/12/7	123	218
9				2005/8/19	69	108
10				2005/10/11	92	162
11				2005/9/19	88	139
12				2005/9/16	101	136
13	2004/4/1		2004/5/2	2004/10/28	121	179
14				2004/9/7	71	123
15	2003/10/20		2004/5/1	2004/10/9	97	161
16				2005/1/5	93	239
17			2004/5/20	2004/9/22	67	125
18	2001/8/17		2001/10/5	2002/9/30	300	360
19	2000/8/30		2001/5/4	2002/1/27	118	268
20				2001/12/10	162	220
21	1999/2/6		1999/4/25	1999/11/23	108	212
22				1999/8/5	64	102
23				1999/11/8	110	197
24				1999/11/27	144	216
25			99/5/27,29,6/1,8	1999/9/1	42	91
26	1998/11/15		99/4/25,29,5/2,7	1999/11/24	97	207
27				1999/10/11	103	164
28				1999/8/23	79	114
29				2000/1/10	123	254
30				1999/9/6	75	133
31	1999/3/23		99/4/29-5/2	1999/8/20	62	112
32	1999/3/23		99/5/14 - 15	1999/10/19	61	157
33	1999/4/1		99/5/2 - 6	1999/9/22	74	141
34	1998/8/12		1998/9/5	1999/5/22	58	259
35	1997/12/10		1998/4/19	1998/11/22	108	218
36				1998/10/6	95	170
37			1998/5/13	1998/9/3	69	113
38			98/4/25-26	1998/9/12	79	140
39				1998/9/6	87	134
40	1997/3/20		1997/4/30	1997/9/29	79	153
41			1997/5/3	1997/9/9	85	129
42			1997/5/4	1997/9/2	66	121
43				1997/9/5	60	124
44				1997/9/3	72	122
45				1997/8/17	56	105
46	1995/11/18		1996/5/2-6	1996/7/15	55	72
47				1996/11/23	110	203
48				1997/3/18	113	318
49				1996/8/11	82	99
	平均				93.5	170.5

表 2 は成長期間におけるトゲグモの成長(脱皮間隔)を表したものである。個体名は飼育番号-卵のう採集年度-採集地記号-性である。交接・産卵の欄の記号はが交接せずに産卵したメス， は交接した個体， は交接し受精卵を産んだメス

である．AU は秋に出のうした個体である．令数は，出のう時 2 令として記録した．

49 頭中，27 頭のオスはすべて 5 令で成体になったが，22 頭のメスのうち 3 頭が 8 令で成体に，残り 19 頭が 7 令で成体になった．飼育の結果からは，8 令の個体は 7 令に比べて，成体になるまでの時間がかかるわけではなく，ほとんど変わらない期間で成体になった事が分かった．さらに，特異な個体として，5 令の期間が異常に長い，秋に出のうした 18 番のメスがあった．

各令ごとの脱皮間隔を比較するとメスの 6 令期間が長い事，メスに比べて，オスの 2 令期間が長い事などが分かる．それら以外は，脱皮間隔は 20～25 日前後で，飼育時に目安とした 3 週間と一致し，実感に合う結果となった．各令期のバラつきは，飼育上の問題点が含まれている可能性がある．

表 2．出のうしたトゲグモが成体になるまでにかかった飼育日数

年度	雌雄	交接 産卵	個体名	出のう 3 令(修正)	3 令 4 令	4 令→ 5 令	5 令→ 6 令	6 令→ 7 令	7 令→8 令
1996			49-96-Y-♂	42	14	26			
1996			48-96-Y-♀	36	8	16	14	15	24
1996			47-96-Y-♀	24	16	24	26	20	
1996			46-96-Y-♂	26	11	18			
1997			45-97-Y-♂	14	23	19			
1997			44-97-Y-♂	14	34	24			
1997			43-97-Y-♂	13	24	23			
1997			42-97-Y-♂	21	23	22			
1997			41-97-Y-♀	14	18	15	14	24	
1997			40-97-Y-♀	12	19	12	16	20	
1998			39-98-O-♂	51	10	26			
1998			38-98-O-♂	48	10	21			
1998			37-98-O-♂	29	18	22			
1998			36-98-O-♀	13	15	20	28	19	
1998			35-98-O-♀	23	19	22	19	25	
1998	AU		34-98-T-♂	11	19	28			
1999			33-99-O-♂	34	21	19			
1999			32-99-O-♂	38	6	17			
1999			31-99-O-♂	18	19	25			
1999			30-99-U-♂	22	11	42			
1999			29-99-U-♀	26	9	10	16	62	
1999			28-99-U-♂	30	23	26			
1999			27-99-U-♀	22	8	11	21	41	
1999			26-99-U-♀	14	12	16	35	20	
1999			25-99-M-♂	13	12	17			
1999			24-99-M-♀	28	11	9	21	75	
1999			23-99-M-♀	30	15	16	17	32	
1999			22-99-M-♂	29	17	18			
1999			21-99-M-♀	29	12	11	23	33	
2001			20-01-O-♀	10	18	24	28	82	
2001			19-01-O-♀	17	14	27	21	39	
2001	AU		18-01-O-♀	15	29	176	30	50	
2004			17-04-Y-♂	28	19	20			
2004			16-04-Y-♀	19	19	11	17	27	
2004			15-04-Y-♀	16	20	15	16	30	
2004			14-04-O-♂	22	32	17			
2004			13-04-O-♀	14	30	25	13	12	27
2005			12-05-O-♂	43	23	35			

2005	11-05-O-♂	30	20	38			
2005	10-05-O-♂	46	11	35			
2005	9-05-O-♂	37	13	19			
2005	8-05-O-♀	31	19	10	29	34	
2005	7-05-O-♂	38	16	23			
2005	6-05-O-♀	31	23	18	12	9	32
2005	5-05-O-♂	27	23	32			
2005	4-05-O-♂	27	23	28			
2005	3-05-O-♀	31	14	26	22	33	
2005	2-05-O-♀	31	14	20	27	28	
2005	1-05-O-♂	20	17	20			
平均		29, 22	17	24	21	33	28

グラフ 1 は、表 2 のトゲグモの成長に要した期間と表 1 の寿命を合わせて、寿命の順に並べたものである。総じて、雄より雌が長命であったこと、秋に出のうした個体は雌雄ともに長命であった事を示している。また、未交接・未産卵の雌の長命さが目立った。

グラフ 2 は、雌雄差や特徴(交接・産卵の有無)ごとにまとめたグループごとに、成長に要した期間と寿命の平均値を比較したグラフである。秋に出のうした個体の値を除いている。未交接メスの寿命が 50 日程長く、長命さが分かる。さらに、未交接メスは、成長期間がオスの平均寿命とほぼ等しく、結果として未交接になった事が分かる。

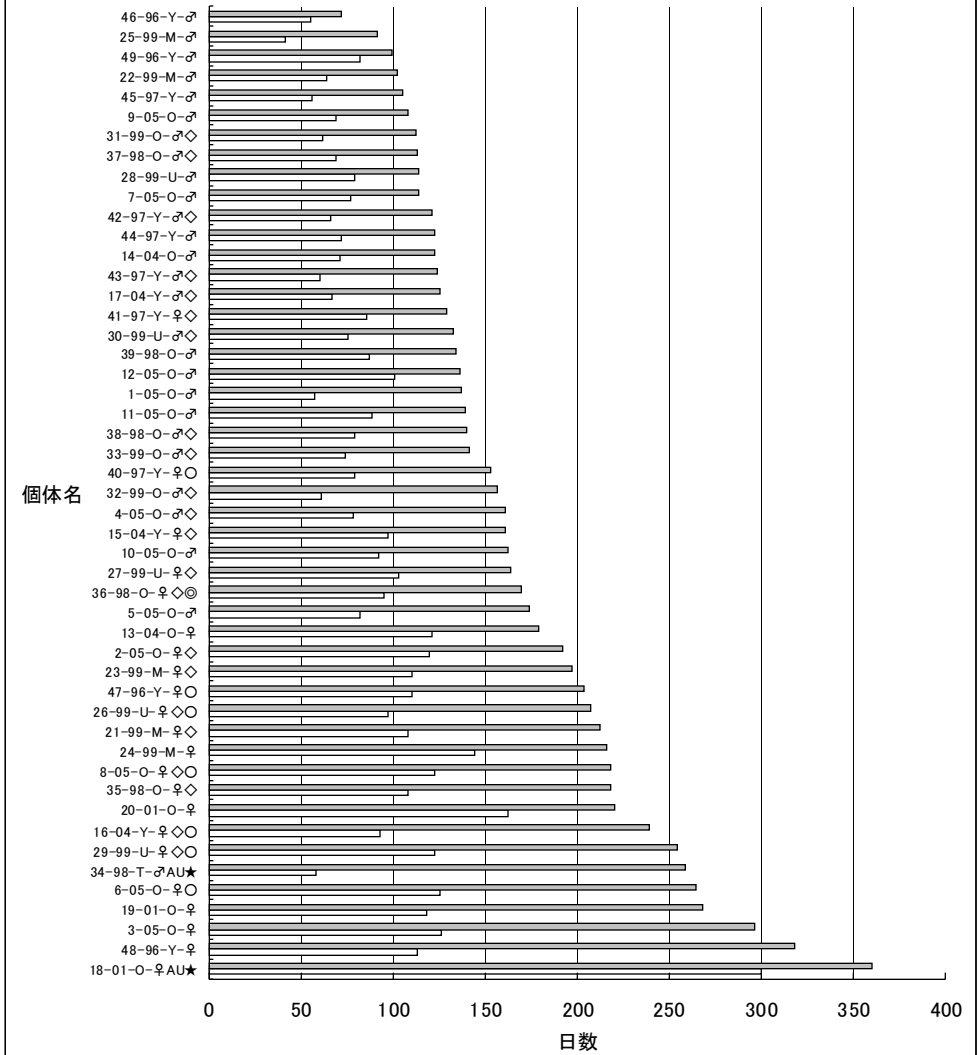
考 察

グラフ 2 から、トゲグモの交接雄は約 70 日間、交接雌(7 令で成体とすると)は約 105 日間で成体になる事になる。5 月初旬の出のうなら雄は 7 月 10 日位に、雌は 8 月 15 日位に成体になり、加藤(1999)で報告した結果と近いものになった。ただ、条件を整えば、グラフ 1 の 18 番の個体のように、幼体越冬できる可能性も示せたと思う。

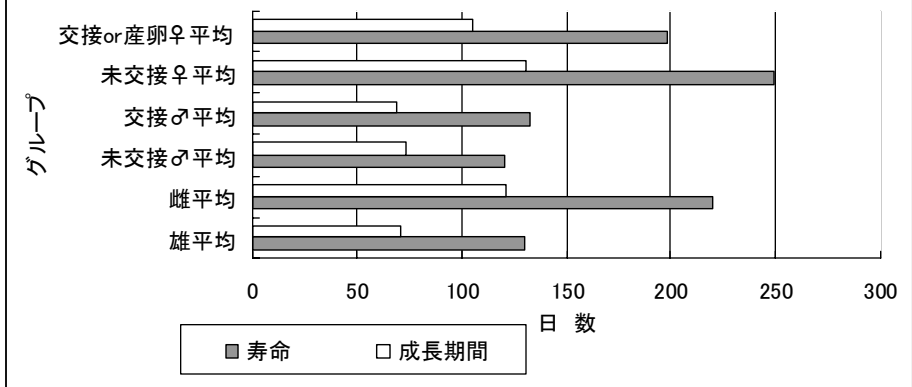
表 1 より、秋に出のうが起きた卵のうは 2 つ有るが、8 月 12 日と 8 月 17 日に採集したもので、産みつけられた卵のうを、早い時期(おそらく産卵直後)に採集したものと思われる。また、34 番の卵のう内には、後に、卵を食べるウジ(卵にウジが触れると、卵が壊れ、液が出るのを観察)が発生した。卵のうが早期に剥がれたり、寄生者が侵入した場合、子グモが、卵のう内に留まるよりも出のうを選択した結果とも考えられる。子グモの卵のう内越冬は、トゲグモにとって標準的なものだと思うが、それは固定された生態ではなく、不利益が生じた場合には、別の生態を選択できる可能性があるのかもしれない。

グラフ 2 から、雌の成体になる時期と雄の寿命に近い事が分かり、トゲグモのような雌雄で成体になる令数が異なるクモの繁殖の難しさが分かる。また、成長の遅い雌は、雄に会えず未交接になるが、消耗が少ない分長寿になる事を示している

グラフ1.成長期間と寿命



グラフ2. トゲグモの成長期間と寿命(交接・産卵との関連)



とも考えられる。

雌の成長が早く雄が遅い理由は、雌雄で成体になる令数が異なるクモの、時間差を埋めるための成長調整とも考えられるが、差はわずかであり、検討が必要である。

あとがき

飼育記録（データ）は、飼育者が自身の飼育方法の見直しや、改善に生かそうと付けるものである。そのために、データの種類が人により異なり、結果として、共用できるデータになりにくい傾向がある。さらに、そのデータは、飼育者のスキルにより変化する可能性を含むため、他者が活用する場合の信頼性を疑問視する向きもある。しかし、良い飼育記録（データ）には、継続的で精度の高い情報を含む可能性もあると考える。今回、汎用 PC ソフトであるエクセルを用いて飼育データを記録することにより、必要なデータの共用が可能になるのではと考えた。飼育データは、飼育される動物の存在（協力）無しには、得られないものであるから、彼等に感謝する事はもとより、埋もれさせる事なく報告する事で、彼等や彼等の仲間の真の生態解明や、彼等の生きる環境の保全や整備に、少しでも役立てられる事ができれば、私にデータを提供してくれたトゲグモたちに報いる事になると考えた。

謝 辞

この原稿作成にあたり、池田博明さんに、表・グラフ・文の修正をして頂いた。多忙な中での御協力に感謝している。

引用文献

加藤むつみ 1997, トゲグモの成長に伴う形態変化と脱皮型の変化. Kishidaia, 72 : 22-26.

加藤むつみ 1999, トゲグモの卵のうと越冬. Kishidaia, 76 : 27-29.

イソウロウグモ類のホストの一覧

新 海 明

最近になりイソウロウグモ類の研究は飛躍的に進展し、その生態や採餌法をめぐる問題が解明されつつある（宮下 2000, 池田 2003）。このようなときに日本産のイソウロウグモ類の宿主（ホスト）についての記録を残すことは、今後のイソウロウグモ類の研究の基礎になると考えられる。

ここでは、私が 1985 年から 1987 年にかけて日本各地で記録したイソウロウグモ類 8 種類の合計 895 例のホスト一覧を報告し、これをもとにして寄主選択の傾向について考察を加えたい。

方 法

調査は、1985 年から 1987 年に東京都八王子市の八王子城跡と千葉県君津市の東京大学農学生命科学研究科附属科学の森教育研究センター千葉演習林（東大千葉演習林）および沖縄県名護市の名護城跡、北中城村の中城城跡、国頭村辺戸岬周辺で行なった。

調査は見取り法で、発見した場合にはイソウロウグモとその宿主の種名を記録した。例数は少ないがホストとイソウロウグモの体長を記録したものもある。

イソウロウグモ各種類ごとの宿主選択の傾向の分析については、ホストの種類別に例数をまとめ、その後はホストの網が皿網・不規則網・柵網タイプか円網タイプか自分で作成した網や糸か、の 3 つに分けて検討を加えた。

結 果

調査したイソウロウグモ 8 種類の種類ごとのホストの一覧を、調査地別、日付別に付表 1～8 に示す。この付表をもとにしてイソウロウグモの種類ごとのホスト選択性を検討した（表 1～8）。

チリイソウロウグモ

ホストの傾向は本州（関東）と沖縄でまったく異なっていた。本州（関東）ではクサグモにもっとも多く 51 例、ついでクミスアラグモ 16 例となり、柵網や皿網に寄生していた例数は 90 で全体の 99% を占めていたのに対して、沖縄では円網

種であるスズミグモ類に 100%侵入していた。ただし、スズミグモ類の網は水平円網とはいえその上下に不規則に張り巡らされた迷網を持つので網構造からは棚網・皿網に類似しているといえるだろう（表 1）。

表 1. チリイソウロウグモのホスト一覧。

本州産		沖縄産	
ホスト	例数	ホスト	例数
クサグモ	51 例	スズミグモ	11 例
クスミサラグモ	16 例	ハラビロスズミグモ	3 例
コクサグモ	8 例		
ヒメグモ	7 例		
アシナガサラグモ	5 例		
カレハヒメグモ	2 例		
ジョロウグモ	1 例		
ハシリグモ類まどい	1 例		
合計	91 例	合計	14 例

トビジロイソウロウグモ

例数は 8 例と少なかったが、そのうちの 7 例（88%）は円網種をホストとしていた。このうちのジョロウグモは網の前後に迷網部を持つが他の種類では迷網部はない（表 2）。

表 2. トビジロイソウロウグモのホスト。

ホスト	例数
ジョロウグモ	3 例
オオシロカネグモ	1 例
オニグモ	1 例
イシサワオニグモ	1 例
ゴミグモ	1 例
ユノハマヒメグモ	1 例
合計	8 例

ヤリグモ

侵入していたホスト 147 例中の 71 例（48%）がクスミサラグモだった。そして、ホストの種類は 19 種類ともっとも多様性に富んでいた。皿網・不規則網・棚

網に侵入していたのは 130 例（88%），円網には 8 例だけだった（表 3）。

表 3. ヤリグモのホスト。

ホスト	例数	ホスト	例数
クスミサラグモ	71 例	カレハヒメグモ	1 例
ニホンヒメグモ	14 例	ヤマシロオニグモ	1 例
コクサグモ	14 例	ギボシヒメグモ	1 例
アシナガサラグモ	9 例	ユウレイグモ	1 例
クサグモ	7 例	ムネグロヒメグモ	1 例
ユノハマサラグモ	5 例	カタハリウズグモ	1 例
ジョロウグモ	3 例	フタスジサラグモ	1 例
バラギヒメグモ	2 例	ヨツデゴミグモ	1 例
オオヒメグモ	2 例	キシダグモ類まどい	1 例
シロカネグモの一種	2 例	自分で作成した糸	9 例
		合計	147 例

ツノナガイソウロウグモ

イソウロウグモ類で自分の網を張るクモとして知られる。観察した 73 例中の 57 例は自分の作成した網内にいたものだったが，16 例（22%）は他のクモの網にいたものだった。そのすべてが皿網・不規則網・棚網に侵入していたものである（表 4）。

表 4. ツノナガイソウロウグモのホスト。

ホスト	例数
自分で作成した網	57 例
クサグモ	11 例
コクサグモ	4 例
クスミサラグモ	1 例
合計	73 例

フタオイソウロウグモ

侵入していたホスト 161 例中の 87 例（54%）がクスミサラグモだった。しかし，ホストの種類は 14 種類とヤリグモについて多かった。皿網・不規則網・棚網に侵入していたのは 135 例（84%），自分で作成した網に 23 例（14%），円網には 3 例だけだった（表 5）。

表 5 . フタオイソウロウグモの宿主 .

宿主	例数	宿主	例数
クスミサラグモ	87 例	コクサグモ	2 例
ニホンヒメグモ	13 例	ジョロウグモ	2 例
クサグモ	11 例	キシダグモ類まどい	1 例
カレハヒメグモ	6 例	ヤマオニグモ	1 例
ヒメグモの一種	4 例	アシプトヒメグモ	1 例
バラギヒメグモ	3 例	イオウイロハシリグモの まどい	1 例
フタスジサラグモ	3 例	自分で作成した網	23 例
ユノハマサラグモ	3 例	合計	161 例

ミナミノアカイソウロウグモ

すべて沖縄での記録である。観察した 69 例すべてが円網に侵入していた。その内の 60 例 (87%) はオオジョロウグモが占めていた (表 6)。

表 6 . ミナミノアカイソウロウグモの宿主 .

宿主	例数
オオジョロウグモ	60 例
ジョロウグモ	4 例
シロカネグモの一種	2 例
ハラビロスズミグモ	1 例
チブサトゲグモ	1 例
ナガマルコガネグモ	1 例
合計	69 例

シロカネイソウロウグモ

本州 21 例, 沖縄 103 例のすべての宿主が円網種だった。本州ではジョロウグモ 20 例 (95%), 沖縄では 73 例 (71%) がオオジョロウグモの網にいた (表 7)。

クロマルイソウロウグモ

観察例 8 例中オオヒメグモが 7 例 (88%) で他の 1 例はカゲヤヒメグモだったので、寄種のすべてがヒメグモ科のものだった (表 8)。

表 7. シロカネイソウロウグモのホスト.

本州		沖縄	
ホスト	例数	ホスト	例数
ジョロウグモ	20 例	オオジョロウグモ	73 例
イエオニグモ	1 例	スズミグモ	15 例
		コガタコガネグモ	9 例
		ナガマルコガネグモ	3 例
		チブサトゲグモ	1 例
		ヘリジロオニグモ	1 例
		ホシスジオニグモ	1 例
合計	21 例	合計	103 例

表 8. クロマルイソウロウグモのホスト.

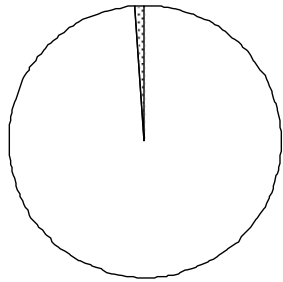
ホスト	例数
オオヒメグモ	7 例
カグヤヒメグモ	1 例
合計	8 例

考 察

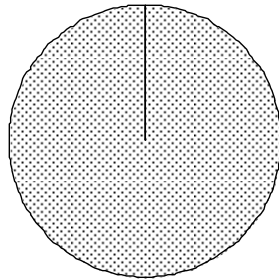
ここで調査対象としたイソウロウグモ類各種のホストを、皿網・不規則網・棚網作成タイプと円網作成タイプに分けたものを表 9 に、それに基づいてグラフ化したものを図 1 に示す。これを見るとフタオイソウロウグモ・チリイソウロウグモ(本州)・ヤリグモは皿網・不規則網・棚網を好んで侵入し、チリイソウロウグモ(沖

表 9. イソウロウグモ類のホスト選好性.

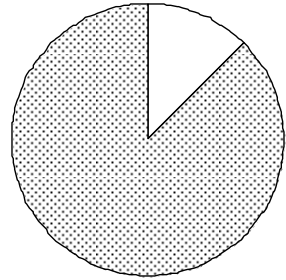
	皿網・不規則網・棚網	円網	自分で作成した網や糸	合計
チリイソウロウグモ(本州)	90	1	0	91
(沖縄)	0	14	0	14
トビジロイソウロウグモ	1	7	0	8
ヤリグモ	132	6	9	147
ツノナガイソウロウグモ	16	0	57	73
フタオイソウロウグモ	135	3	23	161
ミナミノアカイソウロウグモ	0	69	0	69
シロカネイソウロウグモ(本州)	0	21	0	21
(沖縄)	0	103	0	103
クロマルイソウロウグモ	8	0	0	8



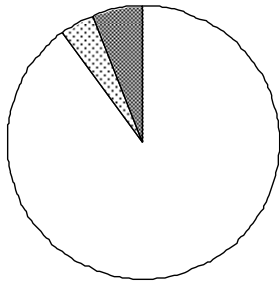
チリイソウロウグモ
(本州) N=91



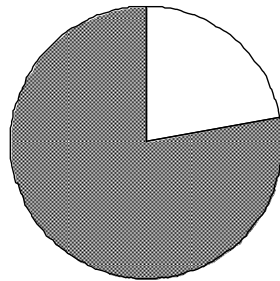
チリイソウロウグモ
(沖縄) N=14



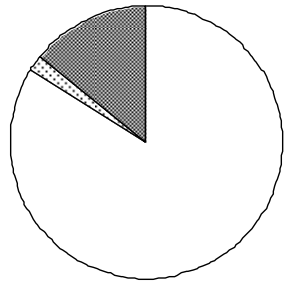
トビジロイソウロウグモ
N=8



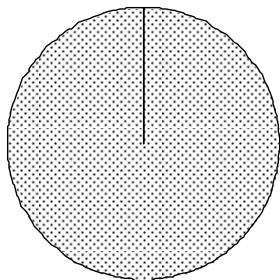
ヤリグモ
N=147



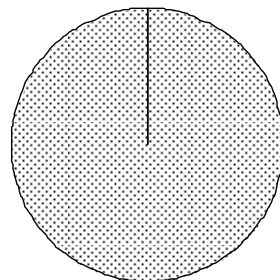
ツノナガイソウロウグモ
N=73



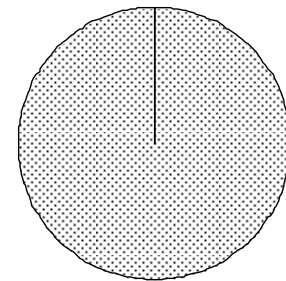
フタオイソウロウグモ
N=161



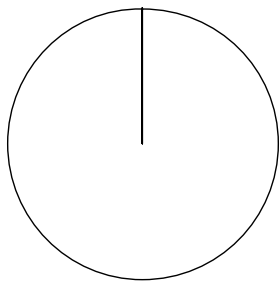
ミナミノアカイソウロウグモ
N=69



シロカネイソウロウグモ
(本州) N=21

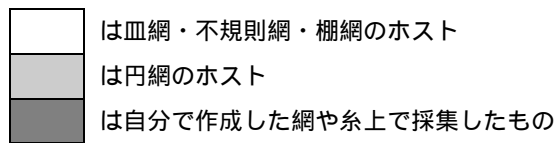


シロカネイソウロウグモ
(沖縄) N=103



クロマルイソウロウグモ
N=8

図1. イソウロウグモ類のホストの選好性.



を示す.

縄), ミナミノアカイソウロウグモ・シロカネイソウロウグモ・トビジロイソウロウグモは円網を好む傾向があることがわかる。また, ツノナガイソウロウグモとクロマルイソウロウグモは他のイソウロウグモ類と異なり, 前者は自分の網を作成することが多く, 後者はオオヒメグモをもっぱらホストとしていた。

これらイソウロウグモ各種ごとのホスト選好性の違いは, 採餌行動の違いに関係している可能性が高い。ミナミノアカ・シロカネ・トビジロは主としてホストの網に残された餌や放置されている昆虫を盗んでいる。一方, ヤリグモ・フタオはホストそのものを襲うクモ食いである。そして, チリの捕食習性は両者の中間に位置するようだ(新海 1998)。このため, ミナミノアカ・シロカネ・トビジロはサイズ差の大きな大型の円網種に侵入し, ヤリグモ・フタオは同じ程度のサイズの皿網・不規則網・柵網種に侵入する傾向があるのかもしれない。また, 前者のように円網に侵入するタイプのイソウロウグモは, ホストの網の周囲に自分で張った糸の「ネットワーク」を作成するが, 後者のようなイソウロウグモ類はホストの網に侵入する時にそのような「ネットワーク」を作成しない(新海, 準備中)。これらの習性もホスト選好性に関係しているのかも知れない。

私はかつて, 皿網・不規則網・柵網を好むチリイソウロウグモ(本州)を円網と柵網に導入して, その後どのくらいの期間その網に居続けるか実験したことがある。チリは円網に導入した翌日には移動してしまっただが, 柵網に導入したチリは長期間居続けた。網を構成する糸の特性やホストとの「相性」など, まだ知られていない要因でイソウロウグモ類各種はホストの網を見分けている可能性も考えられる。

引用文献

- 池田博明編 2003. クモの巣と網の不思議. 183 p. 文葉社, 東京.
宮下 直編 2000. クモの生物学. 267 p. 東京大学出版会, 東京.
新海 明 1998. クモの糸と生態. Acta Arachnol., 47: 191-195.

付表 1. チリイソウロウグモ (×数値: 同じ例が複数あったもの)

ホストの種類 (体長)	イソウロウの 体長	調査年月日	調査場所
カレハヒメグモ (-) × 2	-	86.6.15	千葉県清澄山
クスミサラグモ (-)	1.5mm	86.6.8	東京都八王子城跡
クサグモ (-) × 2	1.5mm	86.6.15	千葉県清澄山
クスミサラグモ (-)	-	86.6.22	東京都八王子城跡
クスミサラグモ (-)	-	86.6.28	東京都八王子城跡
クサグモ (-)	-	86.7.5	東京都八王子城跡
クサグモ (-)	-	86.7.13	東京都八王子城跡
スズミグモ (-)	-	86.7.18	沖縄県辺戸岬
スズミグモ (-) × 4	-	86.7.19	沖縄県名護城
スズミグモ (-) × 2	-	86.7.19	沖縄県中城
ハラビロスズミグモ (-)	-	86.7.19	沖縄県中城
クサグモ (-) × 15	-	86.7.26	千葉県清澄山
クサグモ (-) × 9	-	86.7.27	千葉県清澄山
アシナガサラグモ (-) × 2	-	86.7.29	東京都八王子城跡
アシナガサラグモ (-) × 2	-	86.8.2	東京都八王子城跡
コクサグモ (-)	-	86.8.2	東京都八王子城跡
ヒメグモ (-)	-	86.8.10	東京都八王子城跡
コクサグモ (-)	-	86.8.13	東京都八王子城跡
クサグモ (-)	-	86.8.13	東京都八王子城跡
ヒメグモ (-)	-	86.8.13	東京都八王子城跡
ヒメグモ (-)	-	86.8.15	東京都八王子城跡
コクサグモ (-)	-	86.8.15	東京都八王子城跡
コクサグモ (-)	-	86.8.16	千葉県清澄山
クサグモ (-)	-	86.8.16	千葉県清澄山
クサグモ (-) × 3	-	86.8.17	千葉県清澄山
コクサグモ (-) × 3	-	86.9.27	千葉県清澄山
アシナガサラグモ (-)	-	86.9.27	千葉県清澄山
ハシリグモの一種まどい	-	86.9.27	千葉県清澄山
ヒメグモ (-)	-	86.10.5	東京都八王子城跡
ヒメグモ (-)	-	86.10.10	東京都八王子城跡
コクサグモ (-)	-	86.10.18	千葉県清澄山
ヒメグモ (-)	-	86.11.22	千葉県清澄山
クスミサラグモ (-)	-	87.5.4	東京都八王子城跡
クサグモ (-) × 4	-	87.5.16	千葉県清澄山
クスミサラグモ (-)	-	87.5.16	千葉県清澄山
クスミサラグモ (-) × 4	-	87.5.24	東京都八王子城跡
クスミサラグモ (-) × 5	-	87.5.31	東京都八王子城跡
クサグモ (-)	-	87.6.13	東京都八王子城跡
クサグモ (-) × 3	-	87.6.21	東京都八王子城跡
クスミサラグモ (-)	-	87.6.27	千葉県清澄山
クサグモ (-) × 2	-	87.6.27	千葉県清澄山
クスミサラグモ (-)	-	87.6.28	千葉県清澄山
ジョウロウグモ (-)	-	87.6.28	千葉県清澄山
クサグモ (-) × 2	-	87.6.28	千葉県清澄山
クサグモ (-)	-	87.7.4	東京都八王子城跡
クサグモ (-)	-	87.7.11	東京都八王子城跡
スズミグモ (-) × 3	-	87.7.17	沖縄県名護城
ハラビロスズミ (-) × 2	-	87.7.17	沖縄県名護城
スズミグモ (-)	-	87.7.18	沖縄県辺戸岬
ヒメグモ (-)	-	87.7.24	東京都八王子城跡
クサグモ (-) × 4	-	87.7.25	千葉県清澄山

付表 2 . トビジロイソウロウグモ

ホストの種類 (体長)	イソウロウ の体長	調査年月日	調査場所
オオシロカネグモ (-)	-	85.8.17	千葉県清澄山
オニグモ (-)	-	86.7.27	千葉県清澄山
イシサワオニグモ (-)	-	86.10.10	東京都八王子城跡
ジョロウグモ (-) ×2	-	86.10.10	東京都八王子城跡
ジョロウグモ (-)	-	86.10.18	千葉県清澄山
ユノハマヒメグモ (-)	-	87.6.27	千葉県清澄山
ゴミグモ (-)	-	87.6.28	千葉県清澄山

付表 3 . ヤリグモ

(* : 発見時にホストを捕食していたもの)

ホストの種類 (体長)	イソウロウの 体長	調査年月日	調査場所
クスミサラグモ (-)	-	86.5.17	東京都八王子城跡
クスミサラグモ (-) ×2	-	86.5.31	東京都八王子城跡
クスミサラグモ (-) *	-	86.5.31	東京都八王子城跡
アシナガサラグモ (-)	-	86.5.31	東京都八王子城跡
バラギヒメグモ (-)	-	86.6.8	東京都八王子城跡
ヤ クスミサラグモ (-)	-	86.6.8	東京都八王子城跡
クスミサラグモ (-)	-	86.6.15	千葉県清澄山
カレハヒメグモ (-)	-	86.6.15	千葉県清澄山
ユノハマサラグモ (-)	-	86.6.15	千葉県清澄山
クスミサラグモ (-)	-	86.6.22	東京都八王子城跡
バラギヒメグモ (-)	-	86.6.22	東京都八王子城跡
ヒメグモ (-)	-	86.6.22	東京都八王子城跡
ヤマシロオニグモ (-) *	-	86.6.22	東京都八王子城跡
クスミサラグモ (-)	-	86.6.28	東京都八王子城跡
クスミサラグモ (-) *	-	86.7.5	東京都八王子城跡
ギボシヒメグモ (-)	-	86.7.5	東京都八王子城跡
クサグモ (-)	-	86.7.5	東京都八王子城跡
クスミサラグモ (-)	-	86.7.13	東京都八王子城跡
ユウレイグモ (-)	-	86.7.13	東京都八王子城跡
ムナグロヒメグモ (-)	-	86.7.26	千葉県清澄山
ヤ コクサグモ (-)	-	86.7.26	千葉県清澄山
クスミサラグモ (-)	-	86.7.29	東京都八王子城跡
クサグモ (-)	-	86.8.2	東京都八王子城跡
クスミサラグモ (-)	-	86.8.9	東京都八王子城跡
アシナガサラグモ (-) ×3	-	86.8.9	東京都八王子城跡
コクサグモ (-)	-	86.8.9	東京都八王子城跡
クスミサラグモ (-)	-	86.8.10	東京都八王子城跡
ヒメグモ (-) ×4	-	86.8.10	東京都八王子城跡
コクサグモ (-)	-	86.8.10	東京都八王子城跡
アシナガサラグモ (-)	-	86.8.10	東京都八王子城跡
コクサグモ (-)	-	86.8.13	東京都八王子城跡
ヒメグモ (-)	-	86.8.13	東京都八王子城跡
アシナガサラグモ (-)	-	86.8.13	東京都八王子城跡
オオヒメグモ (-)	-	86.8.13	東京都八王子城跡
コクサグモ (-) ×2	-	86.8.15	東京都八王子城跡
ヒメグモ (-)	-	86.8.15	東京都八王子城跡
アシナガサラグモ (-)	-	86.8.15	東京都八王子城跡

カタハリウズグモ (-)	-	86.8.15	東京都八王子城跡
ハシリグモの一種まどい	-	86.8.15	東京都八王子城跡
クスミサラグモ (-)	-	86.8.16	千葉県清澄山
クスミサラグモ (-)	-	86.8.17	千葉県清澄山
ヤ コクサグモ (-) × 3	-	86.8.17	千葉県清澄山
クサグモ (-)	-	86.8.17	千葉県清澄山
クスミサラグモ (-) × 6	-	86.9.23	東京都八王子城跡
コクサグモ (-) × 3	-	86.9.23	東京都八王子城跡
ヒメグモ (-) × 3	-	86.9.23	東京都八王子城跡
フタスジサラグモ (-)	-	86.9.23	東京都八王子城跡
オオヒメグモ (-)	-	86.9.23	東京都八王子城跡
クスミサラグモ (-)	-	86.10.5	東京都八王子城跡
クスミサラグモ (-) × 4	-	86.10.10	東京都八王子城跡
ヒメグモ (-)	-	86.10.10	東京都八王子城跡
シロカネグモの一種 (-) *	-	87.4.11	東京都八王子城跡
ユノハマサラグモ (-)	-	87.4.11	東京都八王子城跡
ヨツデゴミグモ (-)	-	87.4.11	東京都八王子城跡
自分の張った糸 (-) × 4	-	87.4.11	東京都八王子城跡
クスミサラグモ (-) × 6	-	87.4.11	東京都八王子城跡
クスミサラグモ (-) × 2 *	-	87.4.11	東京都八王子城跡
クスミサラグモ (-) × 4	-	87.4.25	東京都八王子城跡
自分の張った糸 (-)	-	87.4.25	東京都八王子城跡
ユノハマサラグモ (-) × 2	-	87.4.29	東京都八王子城跡
クスミサラグモ (-) × 2	-	87.4.29	東京都八王子城跡
自分の張った糸 (-)	-	87.4.29	東京都八王子城跡
クスミサラグモ (-) × 4	-	87.5.2	東京都八王子城跡
ユノハマサラグモ (-)	-	87.5.2	東京都八王子城跡
自分の張った糸 (-)	-	87.5.2	東京都八王子城跡
クスミサラグモ (-) *	-	87.5.4	東京都八王子城跡
クスミサラグモ (-)	-	87.5.4	東京都八王子城跡
クスミサラグモ (-) × 7	-	87.5.10	東京都八王子城跡
クスミサラグモ (6mm)	8mm	87.5.16	千葉県清澄山
自分の張った糸 (-) × 3	-	87.5.24	東京都八王子城跡
クスミサラグモ (-) × 8	-	87.5.24	東京都八王子城跡
クスミサラグモ (-) × 6	-	87.5.31	東京都八王子城跡
ヒメグモ (-)	-	87.6.13	東京都八王子城跡
クスミサラグモ (-)	-	87.6.13	東京都八王子城跡
クサグモ (-)	-	87.6.13	東京都八王子城跡
クサグモ (-) × 2	-	87.6.21	東京都八王子城跡
ジョロウグモ (-)	-	87.6.27	千葉県清澄山
自分の張った糸 (-) × 2	-	87.6.27	千葉県清澄山
クスミサラグモ (-) × 2	-	87.7.4	東京都八王子城跡
ヒメグモ (-)	-	87.7.4	東京都八王子城跡
ジョロウグモ (-)	-	87.7.4	東京都八王子城跡
クサグモ (-)	-	87.7.4	東京都八王子城跡
コクサグモ (-)	-	87.7.4	東京都八王子城跡
シロカネグモの一種 (-) *	-	87.7.11	東京都八王子城跡
ヒメグモ (-)	-	87.7.24	東京都八王子城跡
アシナガサラグモ (-) × 2	-	87.7.24	東京都八王子城跡
コクサグモ (-)	-	87.7.24	東京都八王子城跡
ジョロウグモ (-)	-	87.7.25	千葉県清澄山

付表 4. ツノナガイソウロウグモ

ホストの種類 (体長)	イソウロウの 体長	調査年月日	調査場所
自分の網を作成 (-)	-	85.8.30	東京都八王子城跡
自分の網を作成 (-)	-	85.9.1	東京都八王子城跡
自分の網を作成 (-)	-	85.9.2	東京都八王子城跡
自分の網を作成 (-)	-	85.9.8	東京都八王子城跡
自分の網を作成 (-) × 2	-	86.7.27	千葉県清澄山
クサグモ (-)	-	86.7.27	千葉県清澄山
自分の網を作成 (-) × 5	-	86.7.29	東京都八王子城跡
クサグモ (-)	-	86.7.29	東京都八王子城跡
自分の網を作成 (-) × 4	-	86.8.2	東京都八王子城跡
自分の網を作成 (-) × 3	-	86.8.9	東京都八王子城跡
自分の網を作成 (-) × 4	-	86.8.10	東京都八王子城跡
自分の網を作成 (-) × 7	-	86.8.13	東京都八王子城跡
自分の網を作成 (-) × 7	-	86.8.16	千葉県清澄山
コクサグモ (-) × 3	-	86.9.27	千葉県清澄山
コクサグモ (-)	-	86.10.18	千葉県清澄山
自分の網を作成 (-) × 2	-	87.5.25	東京都八王子城跡
自分の網を作成 (-)	-	87.5.31	東京都八王子城跡
クスミサラグモ (-)	-	87.6.13	東京都八王子城跡
クサグモ (-) × 4	-	87.6.21	東京都八王子城跡
自分の網を作成 (-)	-	87.6.27	千葉県清澄山
クサグモ (-)	-	87.6.27	千葉県清澄山
自分の網を作成 (-) × 4	-	87.7.4	東京都八王子城跡
クサグモ (-) × 2	-	87.7.4	東京都八王子城跡
自分の網を作成 (-) × 7	-	87.7.11	東京都八王子城跡
クサグモ (-) × 2	-	87.7.11	東京都八王子城跡
自分の網を作成 (-) ×	-	87.7.24	東京都八王子城跡

付表 5. フタオイソウロウグモ (* : 発見時にホストを捕食していたもの)

ホストの種類 (体長)	イソウロウの 体長	調査年月日	調査場所
カレハヒメグモ (-)	-	86.5.25	千葉県清澄山
カレハヒメグモ (-) × 5	-	86.6.15	千葉県清澄山
バラギヒメグモ (-) × 2	-	86.6.22	東京都八王子城跡
クスミサラグモ (-) × 5	-	86.6.22	東京都八王子城跡
クスミサラグモ (-) *	-	86.6.22	東京都八王子城跡
ヤマオニグモ (-)	-	86.6.22	東京都八王子城跡
クスミサラグモ (-)	-	86.6.28	東京都八王子城跡
クサグモ (-) × 2	-	86.6.28	東京都八王子城跡
クサグモ (-) × 2	-	86.7.5	東京都八王子城跡
クスミサラグモ (-) × 2	-	86.7.5	東京都八王子城跡
クスミサラグモ (-) × 2	-	86.7.13	東京都八王子城跡
クサグモ (-) × 2	-	86.7.13	東京都八王子城跡
クサグモ (-)	-	86.7.26	千葉県清澄山
自分の網を作成卵のう用 × 2	-	86.7.29	東京都八王子城跡
クサグモ (-) × 2	-	86.8.2	東京都八王子城跡
ヒメグモ (-)	-	86.8.2	東京都八王子城跡
クスミサラグモ (-) × 3	-	86.8.10	東京都八王子城跡
自分の網を作成卵のう用 × 3	-	86.8.10	東京都八王子城跡

クスミサラグモ (-) *	-	86 . 8 . 13	東京都八王子城跡
クスミサラグモ (-) × 2	-	86 . 8 . 13	東京都八王子城跡
フタスジサラグモ (-)	-	86 . 8 . 13	東京都八王子城跡
自分の網を作成卵のう用 × 2	-	86 . 8 . 13	東京都八王子城跡
クスミサラグモ (-) × 3	-	86 . 8 . 15	東京都八王子城跡
自分の網を作成卵のう用 × 5	-	86 . 8 . 15	東京都八王子城跡
クスミサラグモ (-) × 2	-	86 . 9 . 23	東京都八王子城跡
ヒメグモ (-) × 5	-	86 . 9 . 23	東京都八王子城跡
フ クサグモ (-)	-	86 . 9 . 27	千葉県清澄山
コクサグモ (-)	-	86 . 9 . 27	千葉県清澄山
ハシリグモの一種まどい	-	86 . 9 . 27	千葉県清澄山
ヒメグモ (-) × 2	-	86 . 10 . 5	東京都八王子城跡
ヒメグモ (-) × 3	-	86 . 10 . 10	東京都八王子城跡
クスミサラグモ (-) × 2	-	86 . 10 . 10	東京都八王子城跡
フタスジサラグモ (-)	-	86 . 10 . 10	東京都八王子城跡
ジョロウグモ (-)	-	86 . 10 . 10	東京都八王子城跡
アシプトヒメグモ (-)	-	86 . 10 . 18	千葉県清澄山
ユノハマサラグモ (-)	-	86 . 10 . 18	千葉県清澄山
コクサグモ (-)	-	86 . 10 . 18	千葉県清澄山
イオウイロハシリグモ のまどい	-	86 . 10 . 18	千葉県清澄山
ヒメグモ科の一種 (-)	-	86 . 10 . 18	千葉県清澄山
ヒメグモ科の一種 (-) × 3	-	86 . 11 . 22	千葉県清澄山
ユノハマサラグモ (-)	-	87 . 4 . 11	東京都八王子城跡
クスミサラグモ (-)	-	87 . 4 . 11	東京都八王子城跡
不規則網 (自網?)	-	87 . 4 . 11	東京都八王子城跡
クスミサラグモ (-)	-	87 . 4 . 29	東京都八王子城跡
不規則網 (自網?) × 2	-	87 . 4 . 29	東京都八王子城跡
クスミサラグモ (-) × 3	-	87 . 5 . 2	東京都八王子城跡
クスミサラグモ (-) × 2	-	87 . 5 . 2	東京都八王子城跡
クスミサラグモ (-) × 5	-	87 . 5 . 4	東京都八王子城跡
不規則網 (自網?) × 2	-	87 . 5 . 4	東京都八王子城跡
クスミサラグモ (-) × 9	-	87 . 5 . 10	東京都八王子城跡
クスミサラグモ (-) × 13	-	87 . 5 . 24	東京都八王子城跡
フ ユノハマサラグモ (-)	-	87 . 5 . 24	東京都八王子城跡
クスミサラグモ (-) × 18	-	87 . 5 . 31	東京都八王子城跡
クサグモ (-)	-	87 . 5 . 31	東京都八王子城跡
不規則網 (自網?)	-	87 . 5 . 31	東京都八王子城跡
クスミサラグモ (-) × 2	-	87 . 6 . 6	東京都八王子城跡
クスミサラグモ (-) × 5	-	87 . 6 . 13	東京都八王子城跡
不規則網 (自網?)	-	87 . 6 . 13	東京都八王子城跡
バラギヒメグモ (-)	-	87 . 6 . 13	東京都八王子城跡
不規則網 (自網?) × 2	-	87 . 6 . 21	東京都八王子城跡
フタスジサラグモ (-)	-	87 . 6 . 21	東京都八王子城跡
フ クスミサラグモ (-)	-	87 . 6 . 27	千葉県清澄山
不規則網 (自網?)	-	87 . 6 . 27	千葉県清澄山
ヒメグモ (-)	-	87 . 7 . 4	東京都八王子城跡
クスミサラグモ (-)	-	87 . 7 . 4	東京都八王子城跡
ヒメグモ (-)	-	87 . 7 . 11	東京都八王子城跡
クスミサラグモ (-) × 2	-	87 . 7 . 11	東京都八王子城跡
不規則網 (自網?) 卵のう	-	87 . 7 . 24	東京都八王子城跡
ジョロウグモ (-)	-	87 . 7 . 25	千葉県清澄山

付表 6. ミナミアカイソウロウグモ

ホストの種類 (体長)	イソウロウの 体長	調査年月日	調査場所
オオジョロウグモ (-)	-	86.7.17	沖縄県名護城
オオジョロウグモ (30mm)	-	86.7.18	沖縄県辺戸岬
オオジョロウグモ (-) × 10	-	86.7.19	沖縄県名護城
シロカネグモの一種 (-)	-	86.7.19	沖縄県名護城
ハラビロスズミグモ (-)	-	86.7.19	沖縄県名護城
オオジョロウグモ (-) × 12	-	86.7.19	沖縄県中城
チブサトゲグモ (-)	-	86.7.19	沖縄県中城
オオジョロウグモ (-) × 4	-	87.7.17	沖縄県名護城
ジョロウグモ (-) × 4	-	87.7.17	沖縄県名護城
オオジョロウグモ (-) × 16	-	87.7.18	沖縄県辺戸岬
ナガマルコガネグモ (-)	-	87.7.18	沖縄県辺戸岬
シロカネグモの一種	-	87.7.18	沖縄県辺戸岬
オオジョロウグモ (-) × 16	-	87.7.19	沖縄県中城

付表 7. シロカネイソウロウグモ

ホストの種類 (体長)	イソウロウの 体長	調査年月日	調査場所
スズミグモ (-) × 2	-	86.7.18	沖縄県辺戸岬
オオジョロウグモ (35mm)	-	86.7.18	沖縄県辺戸岬
オオジョロウグモ (30mm)	-	86.7.18	沖縄県辺戸岬
ナガマルコガネグモ (18mm)	-	86.7.18	沖縄県辺戸岬
ナガマルコガネグモ (20mm)	-	86.7.18	沖縄県辺戸岬
オオジョロウグモ (-) × 9	-	86.7.19	沖縄県名護城
オオジョロウグモ (-) × 16	-	86.7.19	沖縄県中城
チブサトゲグモ (-)	-	86.7.19	沖縄県中城
スズミグモ (-)	-	86.7.19	沖縄県中城
イエオニグモ (-)	-	86.8.15	東京都高尾駅
ジョロウグモ (-) × 7	-	86.9.28	千葉県清澄山
ジョロウグモ (-) × 8	-	86.10.18	千葉県清澄山
ジョロウグモ (-) × 5	-	86.11.22	千葉県清澄山
オオジョロウグモ (-) × 2	-	87.7.17	沖縄県名護城
オオジョロウグモ (-) × 33	-	87.7.18	沖縄県辺戸岬
スズミグモ (-) × 12	-	87.7.18	沖縄県辺戸岬
コガタコガネグモ (-) × 9	-	87.7.18	沖縄県辺戸岬
シヘリジロオニグモ (-)	-	87.7.18	沖縄県辺戸岬
ナガマルコガネグモ (-)	-	87.7.18	沖縄県辺戸岬
ホシスジオニグモ (-)	-	87.7.18	沖縄県辺戸岬
オオジョロウグモ (-) × 11	-	87.7.19	沖縄県中城

付表 8. クロマルイソウロウグモ

ホストの種類 (体長)	イソウロウ の体長	調査年月日	調査場所
オオヒメグモ (-)	-	87.6.28	千葉県清澄山
カグヤヒメグモ (-)	-	87.6.28	千葉県清澄山
オオヒメグモ (-) × 4	-	87.7.25	千葉県清澄山
オオヒメグモ (-) × 2	-	87.8.1	千葉県清澄山

東京 23 区におけるキシノウエトタテグモの生息地点

笹 岡 文 雄

キシノウエトタテグモ *Latouchia swinhoei typica* は環境省において準絶滅危惧種に選定されるほど希少とされている。しかしながら地中を中心とした住居形態や生息環境が都市部に偏ることから、各種の調査から洩れてしまった結果、希少とされた可能性も高いと思われる。

従来より東京の都市部には多く分布しているといわれつつも、過去のデータは一自治体あるいは緑地等の狭い地域のものだけで、広い地域を包括的に調査されたものは少なく、次の 3 例程度である。鈴木(1992)は東京区部北部の新宿、千代田、文京 3 区の 30 地点を調べた。キシノウエトタテだけに寄生するというクモタケの全国調査(畑守ほか 1997)に、東京 23 区のうち 12 区の延べ 47 地点(重複地を除くと 33 地点)が報告されている。近年は、東京北東部低地において GIS(地理情報システム)を用いた詳細な調査が進められている(八幡 2006)。

筆者は 1992 年より断続的に東京 23 区の分布調査(87 地点・延べ 107 地点)を行った。調査はほとんどが視認によるもので、住居を捜しクモ本体が中にあるかどうかを確認したものである。一部は掘り採りおよび徘徊中の個体を採集した。近似種のキノボリトタテグモとは住居の大きさ・構築構造の違いから識別は容易である。したがって、東京においてはキシノウエトタテと混同する種はいないため、あえて掘り取りによる採集は行っていない。調査の結果は表 1 に示した。

なお畑守らの調査データ 12 区 47 地点のうち、筆者も 12 区 23 地点の結果を提供した。本稿記載のデータはその時提供したものが含まれていることを付記しておく。

謝 辞

調査にあたり、金野晋、山川守、新海栄一の 3 氏から生息場所の情報をいただいた、ここにあらためて厚くお礼を申し上げます。

最後に

自治体毎数カ所の分布調査では生物学的にはあまり意味がないだろう。ただ今後同種の生息推移、環境あるいは保護について多少なりとも資することができればと

思い、不完全ながら調査データを諸氏に供覧するものである。

引用文献

畑守有紀・新海明・上田俊穂 1997. クモタケ *Nomuraea atypicola* の全国分布調査結果 (1993 ~ 1996 年). *Kishidaia*, 72: 34-47.

鈴木成生 1992. 東京都心北部におけるキシノウエトタテグモの生息分布調査. *Kishidaia*, 63: 1-6.

八幡明彦, 2006. キシノウエトタテグモの生息環境解析と個体群減少率の推定. 日本蜘蛛学会 第 38 回大会講演要旨.

表 1. 調査結果

生息確認数 + : 1~10, ++ : 11~50, +++ : 51~, - : 未確認

F : 成体, M : 成体, y : 性別不明幼体

	住 所	ロケーション	確認日	個体数	備考
	1 綾瀬 1 丁目	しょうぶ沼公園	2001.3.7	-	
	2 綾瀬 6 丁目	東綾瀬公園	2001.3.7	-	
足立区	3 古千谷 1 丁目	舎人公園	2001.3.5	-	
	4 千住河原町 7 丁目	住宅	2001.3.13	+	
	5 千住緑町 2 丁目	住宅	2001.3.13	+	
	6 千住緑町 2 丁目	千住スポーツ公園	2001.3.13	-	
	7 谷中 4 丁目	谷中公園	2001.3.7	-	
荒川区	8 荒川 8 丁目	荒川自然公園	2001.2.22	+	
	9 東尾久 7 丁目	首都大学東京構内 (旧都立保健科学大学)	2001.2.22	+	
	10 東尾久 7 丁目	尾久の原公園	2001.2.22	-	
	11 南千住 6 丁目	区立天王公園	2001.3.13	-	
板橋区	12 小茂根 5 丁目	稲荷神社境内	2006.9.5	-	
	13 桜川 1 丁目	都立城北中央公園 (板橋区側)	2006.9.5	++	
江戸川区	14 上篠崎 1 丁目	浅間神社境内	2001.3.3	+	
	15 上篠崎 1 丁目	篠崎公園	2001.3.3	-	
大田区	16 南千束 2 丁目	洗足池公園	2001.2.23	++	
	17 南千束 2 丁目	住宅	2001.2.23	++	
葛飾区	18 東水元 5 丁目	日枝神社境内	1992.9.20	++	M2 採集
北区	19 王子 1 丁目	飛鳥山公園	1994.7.11	++	徘徊 y1 採集

江 東 区	20	清澄 3 丁目	清澄公園	2001.2.26	+	
	21	清澄 3 丁目	都立清澄庭園	2001.2.26	+	
	22	夢の島	夢の島緑道公園	1994.8.4	-	
新 宿 区	23	新宿 6 丁目	西向天神境内	1996.6.16	+	
	24	内藤町	新宿御苑	1994.7.10	++	
	(24)		同 上	2001.3.20	++	
	25	西落合 2 丁目	住宅	2001.2.21	+	
	26	西早稲田 1 丁目	住宅石垣	2006.9.13	+	
	27	百人町 1 丁目	皆中稲荷神社境内	2001.3.20	+	
洪 谷 区	28	神宮前 1 丁目	表参道道路脇石垣	1995.8.19	+	
	(28)		同 上	1997.9.10	-	破壊 消滅
	29	神宮前 1 丁目	住宅石垣 (プラームスの小径)	1995.8.19	+	
	(29)		同 上	1997.9.10	-	破壊 消滅
	30	神泉町	神泉児童遊園	1994.8.1	++	
	(30)		同 上	1997.7.17	++	
品 川 区	31	代々木神園町	明治神宮南参道	1994.8.8	++	
	(31)		同 上	1997.8.19	++	
	32	小山台 2 丁目	都立林試の森公園	2001.5.15	+++	
	33	西品川 1 丁目	住宅	2001.3.2	+	
	34	西品川 2 丁目	住宅	2001.3.2	+	
	35	西品川 2 丁目	第 2 北三ツ木架通橋脇	2001.3.2	+	
杉 並 区	36	八潮 3 丁目	みなとが丘ふ頭公園	1997.1.15	-	
	(36)		同 上	1998.3.22	-	
	(36)		同 上	2000.5.7	-	
	37	八潮 4 丁目	大井ふ頭中央海浜公園	1997.1.15	-	
	(37)		同 上	1998.3.22	-	
	38	豊町 2 丁目	戸越公園	2001.3.2	+	
墨 田 区	39	善福寺 1 丁目	住宅	2002.7.28	+	
	40	善福寺 2 丁目	善福寺公園	1996.5.12	+	
世 田 谷 区	41	横網 1 丁目	旧安田庭園	2001.2.26	-	廃巢の み確認
	42	横網 2 丁目	横網町公園	2001.2.26	+	
世 田 谷 区	43	梅ヶ丘 2 丁目	烏山川緑道	1994.6.17	+	
	(43)		同 上	1995.6.27	+	
	(43)		同 上	2000.10.14	+	
	44	豪徳寺 2 丁目	世田谷城址公園	1994.8.30	+	
(44)		同 上	1995.6.28	+		

世田谷区	45	世田谷 4 丁目	国土館大学構内建学の森	2000.10.11	+	+	F 1 採集
	(45)		同 上	2006.9.3	+	+	
	(45)		国土館大学構内	2006.4.28	+		徘徊 y 1 採集
	46	代田 4 丁目	羽根木公園	1996.8.9	+	+	
	47	若林 4 丁目	松陰神社脇住宅	2006.7.29	+		
台東区	48	上野公園	上野公園	1995.3.28	+	+	+
	(48)		同 上	2001.3.9	+	+	+
	49	谷中 7 丁目	都立谷中霊園	1994.8.2	+	+	
中央区	50	銀座 1 丁目	水谷橋公園	1994.8.29	-		
	51	新富 1 丁目	新金橋児童公園	1994.8.29	-		
	52	築地 1 丁目	祝橋公園	1994.8.29	-		
	53	築地 1 丁目	亀井橋公園	1994.8.29	-		
	54	日本橋浜町 2 丁目	浜町公園	2001.3.6	-		
	55	浜離宮公園	浜離宮恩賜庭園	1995.7.1	-		
	56	湊 1 丁目	鉄砲洲稻荷神社境内	2001.3.14	+		
千代田区	57	神田駿河台 4 丁目	ニコライ堂石垣	2006.9.21	+		
	58	九段北 4 丁目	外濠公園	1996.7.17	+		
	59	三番町 1 丁目	千鳥ヶ淵公園 (内堀通り沿い)	2006.9.20	+		
	60	日比谷公園	日比谷公園 同 上	1994.7.16 1994.8.30	++ ++		y1 採集 (飼育後 F)
61	北大塚 3 丁目	住宅	1994.6.12	+			
豊島区	62	北大塚 3 丁目	住宅	2006.7.1	+		
	63	北大塚 3 丁目	道路脇石垣	1995.6.18	+		
	(63)		同 上	2006.9.3	+		
	64	北大塚 1 丁目	子安稻荷神社境内	2001.4.20	+		
	65	駒込 5 丁目	都立染井霊園	1993.7.3	+		
	66	雑司ヶ谷 4 丁目	都立雑司ヶ谷霊園	1993.6.28	+		
	(65)		同 上	1994.7.11	+		
	67	西巢鴨 3 丁目	大正大学裏住宅	1994.10.10	+		
	68	東池袋 2 丁目	J R 山手線外回り 線路脇住宅	1995.4.2	+		F 1 採集
	69	目白 1 丁目	学習院大学構内	1994.8.10	++		
(69)		同 上	1997.7.22	++			
中野区	70	新井 4 丁目	北野神社境内	2001.2.21	+		
	71	新井 5 丁目	新井薬師公園	2001.2.21	++		
	72	新井 5 丁目	新井薬師境内	2001.2.21	-		
	73	松が丘 1 丁目	哲学堂公園	2001.2.21	+		y1 採集(飼育後 M)

練馬区	74	石神井町 5 丁目	石神井公園	2002.7.28	+	
	75	関町東 3 丁目	武蔵関公園	1996.7.1	+	
	76	豊玉上 1 丁目	武蔵大学構内	1994.4.2	+	
	77	東大泉 2 丁目	比丘尼公園	2002.7.28	++	
	78	氷川台 1 丁目	都立城北中央公園 (練馬区側)	2006.9.5	+	
文京区	79	本郷 7 丁目	東京大学構内 (医学部前植込)	1993.7.28	-	
	(79)		東京大学構内 (三四郎池周辺)	1995.8.28	++	F2 採集
港区	80	赤坂 9 丁目	檜町公園	1994.8.15	++	
	81	赤坂 9 丁目	檜町公園前住宅石垣	1994.8.15	+	
	82	白金台 5 丁目	国立科学博物館自然教育園	1999.7.10	++	
	(82)		同上	1999.12.18	++	
	83	三田 2 丁目	慶應義塾大学構内	2002.10.10	++	
	84	南青山 2 丁目	都立青山霊園	1994.8.15	++	
	(84)		同上	1995.8.29	++	
	85	南麻布 5 丁目	有栖川宮記念公園	2005.10.13	+	
86	六本木 7 丁目	六本木西公園	1994.8.15	-		
目黒区	87	駒場 3 丁目	東京大学教養学部構内	1994.11.30	+++	
	(87)		同上	1997.7.26	+++	

DRAGLINES

ムツトゲイセキグモを静岡県三島市で観察

高津佳史

静岡県三島市でムツトゲイセキグモを観察する機会を得たので報告します。
2006年7月20日、三島市阿倍野地区で鳥の調査を行った際に、飼料用モロコシ畑でモロコシの葉裏に止まるムツトゲ(幼体)らしきクモを発見しました。腹部両肩の小突起が赤茶色を帯びており図鑑等で見るものと異なっていたため、写真を谷川明男氏に見ていただいたところ、ムツトゲイセキグモとの回答をいただきました。

同じ畑の20mほどの道沿いを30分ほど探したところ、オオトリノフンダマシ3個体、シロオビトリノフンダマシ4個体、アカイトリノフンダマシ2個体(うち1個体はソメワケ・クロトリフン型)を見つけることができました。

樹林内のギャップ(空間)など多数の鳥類が集まる場所のことを「鳥だまり」と呼ぶことがあります。今回ムツトゲがいた畑は、まさに「トリノフンだまり」と呼ばれるような場所でした。100mほど離れて同様のモロコシ畑がありましたが、そこにはトリフンは皆無でした。いったい何がトリフンたちを集めるのでしょうか？

また、一週間後の7月27日に同地を再訪したところ、ムツトゲ(たぶん同じ個体)は小突起の色が薄くなっており、場所も2本隣のモロコシに移動していました。アカトリフンも一枚隣の葉に移っていただけでしたので、余程この畑が気に入ったと思われます。

最後に、お忙しい中、快く写真鑑定をお引き受け下さった谷川氏に御礼申し上げます。

4年目のジグモ

高津佳史

千葉県浦安市日の出地区の宅地で、2006年6月にジグモの住居を観察したので報告します。

同地は、2002年春から造成が始まった住宅地で、開発前はヨシやチガヤの茂る原野でした。筆者はこの埋立地の鳥類調査を4年間継続して実施してきたのですが、4年目にして初めて宅地内の植え込みでジグモの住居を確認しました。

宅地への植木の移植は2002年5月から先行植栽として着手されていたのですが、ジグモの住居が目につくようになるまでには4年かかったこととなります。

ちなみに、植木の大半は鹿児島県から持ち込まれたものです。ということは、ジグモも九州からはるばると旅してきたのでしょうか？

ミヤグモの単眼欠失個体

奥村 賢 一

クモ類の奇形に関する報告は比較的多くあるが、単眼の奇形に限ってみると意外と少ないようである。筆者は写真のように中眼を1個しか持たないミヤグモを採集したので報告する。この個体は中眼が正中線よりやや左側に位置しており、右側の中眼を欠失したものと考えられる。



採集記録

ミヤグモ

採集日：2005年10月23日

採集地：長崎県平戸島白岳

参考文献

景山純孝 1966. ハラピロセンショウグモとヤハズフクログモに見られた単眼の奇形について.

Atypus, 40: 1-2

Ono, H. & Y. Kudo 1996. The ocular anomaly in a ground spider (Araneae: Gnaphosidae) from Japan. *Acta Arachnol.*, 45: 73-75.

大志茂善平 1953. 蜘蛛の奇形数例. *Atypus*, 4: 7-8.

DRAGLINES

他の個体の廃巢を利用したキシノウエトタテ

笹岡文雄

2006年4月28日、東京都世田谷区、国士舘大学構内において、徘徊中のキシノウエトタテグモ *Latouchia swinhoei typica* の幼体（体長約10mm弱）を採集した。

自宅にて飼育することにしたが、この時は適当な容器が見つからなかった。そこで別の個体が住居を放棄してしまい、そのままになっていた飼育容器を利用することにした。その容器では直前まで採集した個体と、ほぼ同じ大きさのクモを飼育していた。住居放棄の原因は不明で、外見は特に破損は見られなかった。19時頃その容器に採集個体を入れ、ほぼ1日放置した。過去の飼育例からするとキシノウエトタテは早ければ10分程度で住居を造り始める。長いものでは3日ほど徘徊などを繰り返した後に造る個体もあった。

翌日確認すると容器の中には新たな住居を造った後が全くなく、クモ本体が見あたらなかった。逃げ出せるような容器の構造ではないので、廃巢の中を確認すると、その個体が入っていた。この個体は9月現在も生存し飼育継続中であるが、特に支障もなくそのまま他個体の住居を使用している。

過去このような条件で飼育したことがないため、他の個体の廃巢を利用することがスタンダードなことかは不明である。飼育下の特異な例と思われるがここに報告しておく。

季節はずれのチュウガタシロカネグモの採集例

馬場友希

筆者は2006年12月31日に福岡県北九州市戸畑区東鞆ヶ谷にてチュウガタシロカネグモ *Leucauge blanda* のメス成体を採集したのでここに報告する。本種の成体は本土では主に6月から8月にかけて出現することから（千国1989）、これは季節外れの採集例と考えられる。

また本種はこれまで福岡県から正式な採集記録がなかったので県内初記録となることも併せて記しておく。

採集場所はショッピングモールの駐車場であり、本個体はジョロウグモの網の残骸内で発見された。同じ網に同種他個体がみられたが、いずれも体長3mm程度の幼体であり、通常はこのサイズで越冬するものと考えられる。季節外れに成体が見られる理由として、前世代の親が偶然生き残ったか、あるいは次世代の個体が

何らかの要因で急速に成熟できたかのいずれかの可能性が考えられるが、どちらかは不明であった。

福島県でニシキオニグモの採集記録報告 平野 健一

2006年11月8日(水)午後2時20分に福島県南会津郡南会津町田島においてニシキオニグモ *Araneus variegatus* の成体1個体を採集しました。

このクモは、南会津町田島の某公園ベンチ南側にある高さ約2mの軒下に垂直円網を張り、網中央こしきに静座しているところを採集しました。「県別クモ類分布図 ver.2006 by A. Shinkai, A. Andoh & A. Tanikawa」には福島県の記録がありませんでしたので、ここに報告いたします。

< 目録ドラッグラインズ >

伊豆諸島新島のクモ II 仲條 竜太・植松 いのり

伊豆諸島新島からは現在までに22科84種のクモ類が記録されている(仲條ほか2005)。著者らは2005年8月以降現在までに6種の新島新記録種を採集したため、ここに報告する。これにより、伊豆諸島新島から知られるクモ類は22科90種となった。最後に、滞在期間中大変お世話になった故宮川フク氏、宮川孝義氏に深くお礼申し上げる。

- | | |
|--|----------|
| <i>Enoplognatha abrupta</i> (Karsch 1879) | カレハヒメグモ |
| 本村(一の坂), 5-VI-2006, F, 仲條竜太採集同定。 | |
| <i>Rhomphaea tanikawai</i> Yoshida 2001 | タニカワヤリグモ |
| 本村(十三社神社), 5-VIII-2006, FM, 植松いのり採集同定。 | |
| <i>Yaginumena castrata</i> (Bösenberg & Strand 1906) | ボカシミジングモ |
| 大峰, 5-VI-2006, F, 仲條竜太採集同定。 | |
| <i>Araneus pentagrammicus</i> (Karsch 1879) | アオオニグモ |
| 宮塚山, 2-VI-2006, F, 仲條竜太採集同定。 | |
| <i>Poltys illepidus</i> C. L. Koch 1843 | ゲホウグモ |
| 本村(西部畑地), 2-VI-2006, m, 仲條竜太採集同定。 | |
| 本村(十三社神社), 4-VIII-2006, F, 長谷川雅美採集同定 | |
| <i>Myrmarachne kuwagata</i> Yaginuma 1967 | クワガタアリグモ |

DRAGLINES

向山, 8-VIII-2005, M, 植松いのり採集, 池田博明同定.

引用文献

仲條竜太・植松いのり・阿部晴恵・石井智子・一條さくら・尾張智美・五味真人・坂野香織・櫻井あや・猿木祥子・渋谷亮・篠崎智也・塚本麻衣・成田遥香・沼井英里・長谷川雅美・水澤玲子・山中康弘. 2005. 伊豆諸島新島のクモ類相. *Kishidaia*, 88: 73-81.

八丈小島のクモ

仲 條 竜 太

2006年6月に伊豆諸島の八丈小島から採集されたクモを同定する機会に恵まれた。標本はわずかに5個体であるが、著者の知る限りこの島からクモ類の報告はないため、このうち同定を終えた4個体について少数ながらもここに報告する。八丈小島(33°07'N, 139°41'E)は八丈島の西およそ7.5kmにある面積3.1km²、標高616.6mの楕円形の島で、1969年3月の全島民の一斉引揚げ以後は無人である(澤田1981)。貴重な標本を同定する機会を与えて下さった東邦大学の栗山武夫、深澤悟両氏に深くお礼申し上げる。

採集地：東京都八丈支庁八丈町八丈小島

採集日：2006年6月15日

採集者：栗山武夫・深澤悟

Argiope sp.

コガネグモ属の一種 y

Pardosa astrigera L. Koch 1878

ウヅキコモリグモ Fe

Siler cupreus Simon 1888

アオオビハエトリ Fy

引用文献

澤田裕之 1981. 東京都八丈小島における経済活動と集落. 立正大学文学部論叢, 69: 1-31.

徳之島で採集したクモ

馬 場 友 希

1999/7/23から7/31にかけて鹿児島県徳之島でクモを採集する機会があったので、そのリストを掲載する。

頭に印をつけたものは島内新記録となるものである。

Leucauge magnifica Yaginuma 1954

オオシロカネグモ

天城岳 1999/7/29 F

Nephila pilipes (Fabricius 1793)

オオジョロウグモ

畦 1999/7/24 F, 1999/7/27 M

<i>Philoponella prominens</i> (Bösenberg & Strand 1906)	マツガエウズグモ
畦 1999/7/27 F	
<i>Cyclosa confusa</i> Bösenberg & Strand 1906	ミナミノシマゴミグモ
畦 1999/7/30 F	
<i>Thelacantha brevispina</i> (Doleschall 1857)	チブサトゲグモ
畦 1999/7/28 F	
<i>Argiope aemula</i> (Walckenaer 1841)	ナガマルコガネグモ
畦 1999/7/27 FM	
<i>Cyrtophora moluccensis</i> (Doleschall 1857)	スズミグモ
天城岳 1999/7/29 F	
<i>Wadicosa okinawensis</i> (Tanaka 1985)	リュウキュウコモリグモ
畦 1999/7/29 FM	
<i>Pardosa takahashii</i> (S. Saito 1936)	スナハラコモリグモ
畦 1999/7/29 y	
<i>Oxyopes macilentus</i> L. Koch 1878	シマササグモ
天城岳 1999/7/29 F	
<i>Pholcus nagasakiensis</i> Strand 1918	ミナミユウレイグモ
天城岳 1999/7/29 F	
<i>Argyrodes flavescens</i> O. P.-Cambridge 1880	ミナミノアカイソウロウグモ
畦 1999/7/29FM	
<i>Ariamnes cylindrogaster</i> (Simon 1888)	オナガグモ
天城岳 1999/7/29 y	
<i>Argyrodes bonadea</i> (Karsch 1881)	シロカネイソウロウグモ
畦 1999/7/24 F	
<i>Neoscona scylloides</i> (Bösenberg & Strand 1906)	サツマノミダマシ
天城岳 1999/7/29 M	
<i>Neoscona subpullata</i> (Bösenberg & Strand 1906)	ヘリジロオニグモ
畦 1999/7/29 F	
<i>Cyclosa mulmeinensis</i> (Thorell 1887)	トゲゴミグモ
畦 1999/7/24 F	

熊本県で採集したクモ

馬場友希

1999年から2000年にかけて熊本県の各地でクモを採集する機会があったので、そのリストを掲載する。

Leucauge blanda (L. Koch 1878)

チュウガタシロカネグモ

DRAGLINES

- 天草郡苓北町九州大学理学府附属臨海実験所周辺 1999/8/4 F
Tetragnatha squamata Karsch 1879 ウロコアシナガグモ
 上益城郡山都町大川 2000/6/3 F
- Octonoba varians* (Bosenberg & Strand 1906) ウズグモ
 上益城郡山都町大川 2000/6/3 F
- Philodromus auricomus* L. Koch 1878 キンイロエビグモ
 上益城郡山都町井無田 2000/6/3 M
- Philodromus spinatarsis* Simon 1895 キハダエビグモ
 上益城郡山都町井無田 2000/6/3 F
- Runcinia affinis* Simon, 1897 シロスジグモ
 天草郡苓北町九州大学理学府附属臨海実験所周辺 1999/8/9 F
- Dolomedes pallitarsis* Dönitz & Strand 1906 スジプトハシリグモ
 上益城郡山都町大川 2000/6/3 F
- Dolomedes sulfureus* L. Koch 1878 イオウイロハシリグモ
 天草郡苓北町九州大学理学府附属臨海実験所周辺 1999/8/12 F
- Araneus ejusmodi* (Bösenberg & Strand 1906) ヌサオニグモ
 天草郡苓北町九州大学理学府附属臨海実験所周辺 1999/8/4 F
- Argiope bruennichi* (Scopoli 1772) ナガコガネグモ
 天草郡苓北町九州大学理学府附属臨海実験所周辺 2000/8/12 F
- Cyrtarachne nagasakiensis* Strand 1918 シロオビトリノフンダマシ
 天草郡苓北町九州大学理学府附属臨海実験所周辺 1999/8/4 F
- Neoscona scylloides* (Bösenberg & Strand 1906) サツマノミダマシ
 天草郡苓北町九州大学理学府附属臨海実験所周辺 1999/8/10 F
- Arctosa ebicha* Yaginuma 1960 エビチャコモリグモ
 熊本県阿蘇郡南阿蘇村 2000/6/4 F
- Neriere oidedicata* (Helsdingen 1969) ヘリジロサラグモ
 上益城郡山都町井無田 2000/6/3 F
- Yaginumanis sexdentatus* (Yaginuma 1967) ムツバハエトリ
 上益城郡山都町大川 2000/6/3 F
- Achaeearanea tepidariorum* (C. L. Koch 1841) オオヒメグモ
 上益城郡山都町井無田 2000/6/3 M, 2000/6/4 F
- Clubiona lena* Bösenberg & Strand 1906 トビイロフクログモ
 上益城郡山都町井無田 2000/6/3 F
- Pholcus crypticolens* Bösenberg & Strand 1906 コウレイグモ
 上益城郡山都町井無田 2000/6/3 F
- Gnaphosa kompirensis* Bösenberg & Strand 1906 メキリグモ
 上益城郡山都町井無田 2000/6/3 F

奄美大島で採集したクモ

馬場友希

2000/8/19 から 8/22 にかけて鹿児島県奄美大島でクモを採集する機会があったので、そのリストを掲載する。

<i>Sinopoda tanikawai</i> Jäger & Ono 2000 湯湾岳 2000/8/21 F	アマミコアシダカグモ
<i>Boliscus tuberculatus</i> (Simon 1886) 金作原 2000/8/22 y	イボカニグモ
<i>Thomisus kitamurai</i> Nakatsudi 1934 金作原 2000/8/22 F	アマミアズチグモ
<i>Dolomedes orion</i> Tanikawa 2003 金作原 2000/8/19 F	オオハシリグモ
<i>Araneus amabilis</i> Tanikawa 2001 湯湾岳 2000/8/21 y	チュラオニグモ
<i>Argiope amoena</i> L. Koch 1878 小浜 2000/8/19 F	コガネグモ
<i>Argiope bruennichi</i> (Scopoli 1772) 小浜 2000/8/20 F	ナガコガネグモ
<i>Cyclosa confusa</i> Bösenberg & Strand 1906 湯湾岳 2000/8/21 F	ミナミノシマゴミグモ
<i>Cyrtarachne nagasakiensis</i> Strand 1918 金作原 2000/8/19 F, 2000/8/22 F	シロオビトリノフンダマシ
<i>Cyrtophora moluccensis</i> (Doleschall 1857) 小浜 2000/8/19 F, 秋名 2000/8/20 F	スズミグモ
<i>Neoscona scylla</i> (Karsch 1879) マテリアの滝 2000/8/21 F	ヤマシロオニグモ
<i>Neoscona scylloides</i> (Bösenberg & Strand 1906) 古仁屋 2000/8/21 F	サツマノミダマシ
<i>Neoscona subpullata</i> (Bösenberg & Strand 1906) 小浜 2000/8/19 F	ヘリジロオニグモ
<i>Poltys illepidus</i> C. L. Koch 1843 金作原 2000/8/19 F	ゲホウグモ
<i>Thelacantha brevispina</i> (Doleschall 1857) 小浜 2000/8/21 F	チブサトゲグモ
<i>Pardosa laevitarsis</i> Tanaka & Suwa 1986 金作原 2000/8/19 F, 住用マングローブ林 2000/8/20 F	タテスジハリゲコモリグモ
<i>Macrothele amamiensis</i> Shimojana & Haupt 1998	アマミジョウゴグモ

DRAGLINES

金作原 2000/8/22 F	
<i>Plexippus paykulli</i> (Audouin 1827)	チャスジハエトリ
住用村 2000/8/20 M	
<i>Portia fimbriata</i> (Doleschall 1859)	ケアシハエトリ
住用村 2000/8/20 F	
<i>Argyrodes bonadea</i> (Karsch 1881)	シロカネイソウロウグモ
マテリアの滝 2000/8/21 FM	
<i>Ariamnes cylindrogaster</i> (Simon 1888)	オナガグモ
住用村 2000/8/20 F	
<i>Crossopriza lyoni</i> (Blackwall 1867)	オダカユウレイグモ
名瀬新港 2000/8/19 F	
<i>Smeringopus pallidus</i> (Blackwall 1858)	ユウレイグモモドキ
名瀬新港 2000/8/19 F	

四国（高知県・愛媛県）で採集したクモ 馬場友希

2000/5/3 から 5/6 にかけて高知県・愛媛県でクモを採集する機会があったので、そのリストを掲載する。頭に 印をつけたものは県内新記録となるものである。

<i>Thecticopis severa</i> (L. Koch 1875)	カマスグモ
高知県高岡郡大野見村 2000/5/5 F	
<i>Metleucauge yunohamensis</i> (Bösenberg & Strand 1906)	メガネドヨウグモ
高知県高岡郡大野見村 2000/5/3 F	
<i>Coelotes personatus</i> Nishikawa 1973	カメンヤチグモ
愛媛県上浮穴郡久万高原町土小屋 2000/5/4 F	
<i>Diaea subdola</i> O. P.-Cambridge 1885	コハナグモ
愛媛県上浮穴郡久万高原町若山 2000/5/5 F	
<i>Misumenops tricuspидatus</i> (Fabricius 1775)	ハナグモ
高知県高岡郡大野見村 2000/5/3 F	
<i>Araneus pentagrammicus</i> (Karsch 1879)	アオオニグモ
高知県四万十市安並 2000/5/6 F	
<i>Cyclosa argenteoalba</i> Bösenberg & Strand 1906	ギンメッキゴミグモ
高知県高岡郡大野見村 2000/5/6 F	
<i>Araniella yaginumai</i> Tanikawa 1995	ムツボシオニグモ
高知県高岡郡大野見村 2000/5/3 F	

<i>Lycosa coelestis</i> L. Koch 1878 高知県高岡郡大野見村 2000/5/3 F	ハラクロコモリグモ
<i>Pardosa isago</i> Tanaka 1977 高知県高岡郡四万十町 2000/5/6 F	イサゴコモリグモ
<i>Turinyphia yunohamensis</i> (Bösenberg & Strand 1906) 高知県高岡郡大野見村 2000/5/3 F	ユノハマサラグモ
<i>Neriene fusca</i> (Oi 1960) 愛媛県上浮穴郡久万高原町若山 2000/5/5 F	クスミサラグモ
<i>Anahita fauna</i> Karsch 1879 高知県高岡郡大野見村 2000/5/6 y	シボグモ
<i>Plexippus setipes</i> Karsch 1879 高知県高岡郡大野見村 2000/5/6 M	ミスジハエトリ
<i>Evarcha albaria</i> (L. Koch 1878) 愛媛県上浮穴郡久万高原町若山 2000/5/5 F	マミジロハエトリ
<i>Achaeearanea tepidariorum</i> (C. L. Koch 1841) 高知県高岡郡大野見村 2000/5/6 M	オオヒメグモ
<i>Pholcus crypticolens</i> Bösenberg & Strand 1906 高知県高岡郡大野見村 2000/5/6 F	ユウレイグモ
<i>Gnaphosa kompirensis</i> Bösenberg & Strand 1906 高知県高岡郡大野見村 2000/5/6 F	メキリグモ

福岡県能古島のクモ

馬場友希

筆者は 1999 年から 2001 年にかけて福岡県の離島、能古島にてクモ類の採集を行ったのでそのリストを掲載する。能古島は博多湾口の西側に浮かぶ、周囲 8km、面積 3.96km²、対岸からの最短距離約 1.5km の島である（九州大学生物研究部有志 NOKO 2006）。当時私が所属していた九州大学生物研究部はこの能古島で継続的な生物相の調査を行っており、本記録もその活動の一環として行われたものである。現在島内で記録されているクモの種数は 110 種であるが、個人の力では限界があり、まだ数多くの未記録のクモが存在するものと思われる。種組成については、対岸から近いこともあり、県内で普通に見られる種がその多くを占めていた。しかし福岡県はまだクモの調査が不十分であることから、新記録となる種も数多くみとめられた。末筆になるが、調査に同行していただいた九州大学生物研究部の方々、およびクモの同定に協力していただいた東京大学の谷川明男氏に厚くお礼申し上げます。

印は福岡県新記録となるものである。

Ctenizidae トタテグモ科	
<i>Ummidia fragaria</i> (Dönitz 1887)	キノボリトタテグモ
2000/5/28y, 2001/2/20F	
Pholcidae ヨウレイグモ科	
<i>Pholcus crypticolens</i> Bösenberg & Strand 1906	ヨウレイグモ
1999/9/2y, 2001/9/26F	
Segestriidae エンマグモ科	
<i>Ariadna insulicola</i> Yaginuma 1967	シマミヤグモ
2000/5/28F	
Mimetidae センショウグモ科	
<i>Ero japonica</i> Bösenberg & Strand 1906	センショウグモ
2000/10/22y, 2000/5/28y, 2001/6/24M	
Oecobiidae チリグモ科	
<i>Uroctea compactilis</i> L. Koch 1878	ヒラタグモ
2000/10/28y	

Uloboridae ウズグモ科

<i>Hyptiotes affinis</i> Bösenberg & Strand 1906	オウギグモ
1999/10/24F, 2001/10/12F	
<i>Octonoba sybotides</i> (Bösenberg & Strand 1906)	カタハリウズグモ
2000/5/28F, 2001/6/12F	
<i>Octonoba varians</i> (Bösenberg & Strand 1906)	ウズグモ
2000/10/28F, 2000/5/28F	
Theridiidae ヒメグモ科	
<i>Achaeearanea culicivola</i> (Bösenberg & Strand 1906)	カグヤヒメグモ
2000/6/19FM, 2001/6/24FM	
<i>Achaeearanea japonica</i> (Bösenberg & Strand 1906)	ニホンヒメグモ
1999/9/26F, 2001/7/27Fy	
<i>Achaeearanea tepidariorum</i> (C. L. Koch 1841)	オオヒメグモ
1999/4/18F, 2000/11/12F, 2000/5/21y, 2000/6/19FM, 2001/6/12M	
<i>Anelosimus crassipes</i> (Bösenberg & Strand 1906)	アシブトヒメグモ
2000/4/23F, 2000/4/29F, 2001/12/13M, 2001/4/13M, 2001/4/28M	
<i>Argyrodes kumadai</i> Chida & Tanikawa 1999	チリイソウロウグモ
2001/7/13F, 2001/7/27F	
<i>Ariamnes cylindrogaster</i> (Simon 1888)	オナガグモ
1999/5/30F, 1999/9/26y	
<i>Dipoena punctisparsa</i> Yaginuma 1967	シモフリミジングモ
2000/8/9F	
<i>Enoplognatha abrupta</i> (Karsch 1879)	カレハヒメグモ
2000/10/22y, 2000/2(採集日不明)FM	
<i>Enoplognatha caricis</i> (Fickert 1876)	ヤマトコノハグモ
2001/4/22F	
<i>Keijia sterninotata</i> (Bösenberg & Strand 1906)	ムナボシヒメグモ
2000/5/28F, 2001/4/1M	
<i>Neospintharus fur</i> (Bösenberg & Strand 1906)	フタオイソウロウグモ
2001/4/12y	
<i>Phycosoma mustelinum</i> (Simon 1888)	カニミジングモ
2001/4/22F	
<i>Steatoda cingulata</i> (Thorell 1890)	ハンゲツオスナキグモ
2000/11/6F, 2000/5/28F	
<i>Stemmops nipponicus</i> Yaginuma 1969	スネグロオチバヒメグモ

- 2000/10/22y
Takayus subadultus (Bösenberg & Strand 1906) コケヒメグモ
2001/6/24F
Yaginumena castrata (Bösenberg & Strand 1906) ボカシミジグモ
1999/5/30F
Linyphiidae サラグモ科
Gonatium japonicum Simon 1894 ヤマトケズネグモ
2000/11/12F
Nematogmus sanguinolentus (Walckenaer 1837) チビアカサラグモ
2000/5/28F
Nippononeta obliqua (Oi 1960) ナナメケシグモ
2000/5/28F
Turinyphia yunohamensis (Bösenberg & Strand 1906)
ユノハマサラグモ
2001/4/28M
Tetragnathidae アシナガグモ科
Leucauge blanda (L. Koch 1878) チュウガタシロカネグモ
2000/11/6F, 2000/4/29FM, 2001/7/27M
Leucauge magnifica Yaginuma 1954 オオシロカネグモ
2001/7/27F
Leucauge subblanda Bösenberg & Strand 1906 コシロカネグモ
1999/5/30F, 2001/4/22M, 2001/6/24F, 2001/6/4F
Leucauge subgemmea Bösenberg & Strand 1906 キララシロカネグモ
1999/9/2F, 2001/7/27F
Pachygnatha quadrimaculata Bösenberg & Strand 1906
ヨツボシヒメアシナガグモ
2000/11/6F, 2000/4/23F
Tetragnatha praedonia L. Koch 1878 アシナガグモ
2000/10/22F, 2000/5/21F, 2000/5/28F, 2001/4/22M
Tetragnatha squamata Karsch 1879 ウロコアシナガグモ
2001/4/28y
Nephilidae ジョロウグモ科
Nephila clavata L. Koch 1878 ジョロウグモ
1999/9/2M, 2000/10/28F
Araneidae コガネグモ科
Araneus ejusmodi (Bösenberg & Strand 1906) ヌサオニグモ
1999/5/30F, 2000/5/21F
Araneus pentagrammicus (Karsch 1879) アオオニグモ
1999/6/13M, 2000/5/26F, 2001/4/28F, 2001/6/4F

<i>Araneus ventricosus</i> (L. Koch 1878) 1999/6/13F, 1999/9/26y, 2000/6/19F	オニグモ
<i>Argiope amoena</i> L. Koch 1878 1999/5/30y, 2000/6/19M	コガネグモ
<i>Argiope bruennichi</i> (Scopoli 1772) 2000/8/9M, 2001/10/28F	ナガコガネグモ
<i>Argiope minuta</i> Karsch 1879 1999/8/13y, 1999/9/2F	コガタコガネグモ
<i>Chorizopes nipponicus</i> Yaginuma 1963 2001/4/13y	ヤマトカナエグモ
<i>Cyclosa confusa</i> Bösenberg & Strand 1906 1999/6/9F, 1999/9/26F, 2000/10/22F, 2000/10/28F, 2000/11/6F, 2000/8/20F, 2001/12/13F, 2001/5/25F, 2001/6/24F, 2001/9/28F	ミナミノシマゴミグモ
<i>Cyclosa octotuberculata</i> Karsch 1879 2000/4/29F	ゴミグモ
<i>Cyclosa sedeculata</i> Karsch 1879 2000/10/22y	ヨツデゴミグモ
<i>Cyclosa vallata</i> Keyserling 1886 1999/9/2F	マルゴミグモ
<i>Eriophora astridae</i> (Strand 1917) 2000/5/21F, 2001/4/22F, 2001/4/28M	サガオニグモ
<i>Larinia argiopiformis</i> Bösenberg & Strand 1906 1999/9/2y, 2001/6/12F	コガネグモダマシ
<i>Neoscona adianta</i> (Walckenaer 1802) 1999/9/26y	ドヨウオニグモ
<i>Neoscona melloteei</i> (Simon 1895) 1999/8/13F	ワキグロサツマノミダマシ
<i>Neoscona punctigera</i> (Doleschall 1857) 1999/8/13F	コゲチャオニグモ
<i>Neoscona scylla</i> (Karsch 1879) 1999/5/30y, 1999/8/13F, 2000/5/21y, 2001/6/24M	ヤマシロオニグモ
<i>Neoscona scylloides</i> (Bösenberg & Strand 1906) 1999/10/24F, 2000/10/28F, 2001/7/13F	サツマノミダマシ
Lycosidae コモリグモ科	
<i>Lycosa coelestis</i> L. Koch 1878 1999/5/30F, 2000/10/28M	ハラクロコモリグモ
<i>Pardosa agraria</i> Tanaka 1985 2000/4/28M	イナダハリゲコモリグモ

- 2000/6/19M, 2001/6/12F, 2001/6/24F
Cheiracanthium lascivum Karsch 1879 ヤマトコマチグモ
 1999/6/13M
 Liocranidae ウエムラグモ科
- Itatsina praticola* (Bösenberg & Strand 1906) イタチグモ
 2000/10/28F, 2000/11/6F, 2001/4/28M
 Clubionidae フクログモ科
- Clubiona jucunda* (Karsch 1879) ヤハズフクログモ
 2001/4/28M
 Corinnidae ネコグモ科
- Orthobula crucifera* Bösenberg & Strand 1906 オトヒメグモ
 2000/10/22F, 2000/10/28F
- Phrurolithus pennatus* Yaginuma 1967 ヤバネウラシマグモ
 2000/8/9F
 Zodariidae ホウシグモ科
- Asceua japonica* (Bösenberg & Strand 1906) ドウシグモ
 2000/5/28M
 Gnaphosidae ワシグモ科
- Drassodes serratidens* Schenkel 1963 トラフワシグモ
 2001/3/5M
- Gnaphosa kompirensis* Bösenberg & Strand 1906
 メキリグモ
 2000/6/19F, 2001/12/18M
 Philodromidae エビグモ科
- Philodromus auricomus* L. Koch 1878 キンイロエビグモ
 2000/5/28M
- Philodromus spinitarsis* Simon 1895 キハダエビグモ
 2000/10/28F
- Philodromus subaureolus* Bösenberg & Strand 1906
 アサヒエビグモ
 1999/5/30M, 2000/6/19F
- Thanatus miniaceus* Simon 1880 ヤドカリグモ
 2000/6/19F
- Thanatus nipponicus* Yaginuma 1969 ヤマトヤドカリグモ
 1999/9/26y, 2000/10/21F, 2000/10/22M, 2000/11/6F
- Tibellus tenellus* (L. Koch 1876) シャコグモ
 1999/5/30y, 1999/9/26y, 2001/7/13F
 Thomisidae カニグモ科
- Diaea subdola* O. P.-Cambridge 1885 コハナグモ

2001/4/22y	
<i>Misumenops tricuspoidatus</i> (Fabricius 1775)	ハナグモ
1999/9/2M, 2000/4/29y, 2001/4/22M	
<i>Pistius undulatus</i> Karsch 1879	ガザミグモ
1999/5/30F	
<i>Thomisus labefactus</i> Karsch 1881	アズチグモ
1999/9/2F, 1999/9/26M, 2001/9/28F	
<i>Xysticus croceus</i> Fox 1937	ヤマイロカニグモ
1999/5/30F, 1999/9/26F, 2001/6/24M	
<i>Xysticus insulicola</i> Bösenberg & Strand 1906	アズマカニグモ
1999/4/23F	
<i>Xysticus kurilensis</i> Strand 1907	チシマカニグモ
2001/9/28M	
Salticidae ハエトリグモ科	
<i>Asianellus festivus</i> (L. Koch 1834)	ヤマジハエトリ
2001/4/13M	
<i>Carrhotus xanthogramma</i> (Latreille 1819)	ネコハエトリ
2000/4/23M, 2000/5/21y, 2001/12/13M	
<i>Evarcha albaria</i> (L. Koch 1878)	マミジロハエトリ
2000/4/23F, 2000/4/23FM, 2000/4/23y	
<i>Hakka himeshimensis</i> (Dönitz & Strand 1906)	イソハエトリ
1999/10/24M, 2000/5/21M	
<i>Harmochirus insulanus</i> (Kishida 1914)	ウデプトハエトリ
1999/9/26F, 2000/10/28M, 2000/5/28M	
<i>Hasarius adansoni</i> (Audouin 1897)	アダンソンハエトリ
1999/9/26F, 2000/11/6M	
<i>Mendoza canestrinii</i> (Ninni in Canestrini & Pavesi 1868)	オスクロハエトリ
1999/5/30F, 1999/9/26M, 2000/4/23y	
<i>Mendoza elongata</i> (Karsch 1879)	ヤハズハエトリ
1999/5/30M, 1999/9/26M	
<i>Menemerus fulvus</i> (L. Koch 1878)	シラヒゲハエトリ
2000/4/23F	
<i>Myrmarachne formicaria</i> (De Geer 1778)	タイリクアリグモ
2000/11/12M	
<i>Myrmarachne inermichelis</i> Bösenberg & Strand 1906	ヤサアリグモ
1999/5/30M	
<i>Myrmarachne japonica</i> (Karsch 1879)	アリグモ

2000/6/19FM	
<i>Pancorius crassipes</i> (Karsch 1881)	アシプトハエトリ
1999/4/23F, 1999/5/30F	
<i>Plexippoides doenitzi</i> (Karsch 1879)	デーニッツハエトリ
1999/9/26F	
<i>Plexippus paykulli</i> (Audouin 1827)	チャスジハエトリ
1999/9/26y	
<i>Plexippus setipes</i> Karsch 1879	ミスジハエトリ
2000/1/22F, 2000/10/22F, 2000/6/19F	
<i>Rhene atrata</i> (Karsch 1881)	カラスハエトリ
2000/10/28y	
<i>Siler cupreus</i> Simon 1888	アオオビハエトリ
1999/5/30M, 2000/10/28y	

参考文献

九州大学生物研究部 有志 NOKO. 能古島-能古島生物相総合調査-. 別冊 VITAE.

文献による佐賀県産クモ類目録

新海 明・谷川 明男

佐賀県から報告されたクモ類の記録は、筆者らが知るかぎりでは 37 編である。ここでは、これらの記録を集めて佐賀県産のクモ類目録を作成した。この結果、佐賀県産クモ類は 41 科 303 種となった。

読者の中には、ここで報告したリストに載っていないクモを、佐賀県への採集旅行の際に見たという方もおられると思う。しかし、この目録はあくまですでに発表された文献に基づいてまとめたものである。もし、発表済みであるにもかかわらず、ここに掲載されていないクモの種類があれば、文献情報ともども著者らにまでご連絡いただければ幸いである。

目録の作成にあたっては、2006 年 7 月 31 日までに発表された佐賀県での採集記録や観察記録などのクモ類のデータを収集した。ただし、佐賀県産クモ類の種名のリストアップを目的としたので、同一種について扱っている文献を網羅はしていない。出典のもとになった文献は種名のあとに番号で示した。この番号は引用文献のものとは一致している。引用した文献中で種名が特定できないもの、たとえば××グモの一種、×× sp.、××グモ?などとされているものについては、すべて目録から除外した。

科名・属名・種名・和名ならびに配列は、すべて谷川 (2007. 日本産クモ類目録 Ver.2007R1 : <http://www.asahi-net.or.jp/~dp7a-tnkw/japan.pdf>) によった。

Atypidae ジグモ科		
<i>Atypus karschi</i> Dönitz 1887	ジグモ	2, 30
Ctenizidae トタテグモ科		
<i>Ummidia fragaria</i> (Dönitz 1887)	キノボリトタテグモ	30
Sicariidae イトグモ科		
<i>Loxosceles rufescens</i> (Dufour 1820)	イトグモ	2
Scytodidae ヤマシログモ科		
<i>Dictis striatipes</i> L. Koch 1872	ヤマシログモ	2
<i>Scytodes thoracica</i> (Latreille 1804)	ユカタヤマシログモ	30
Pholcidae ヨウレイグモ科		

<i>Crossopriza lyoni</i> (Blackwall 1867)	オダカユウレイグモ	35
<i>Pholcus crypticolens</i> Bös. & Str. 1906	ユウレイグモ	24, 30
Segestriidae エンマグモ科		
<i>Ariadna lateralis</i> (Karsch 1881)	ミヤグモ	2
<i>Segestria senoculata</i> (Linne 1758)	ツクシエンマグモ	2
Dysderidae イノシシグモ科		
<i>Dysdera crocata</i> C. L. Koch 1838	イノシシグモ	2
Oonopidae タマゴグモ科		
<i>Gamasomorpha cataphracta</i> Karsch 1881	ダニグモ	1, 2, 30
<i>Ischnothyreus narutomii</i> (Nakatsuji 1942)	ナルトミダニグモ	30
<i>Opopaea syarakui</i> (Komatsu 1967)	シャラクダニグモ	30
<i>Pseudotriaeris karschi</i> (Bös. & Str. 1906)	ケムリダニグモ	1, 2
Mimetidae センショウグモ科		
<i>Ero japonica</i> Bös. & Str. 1906	センショウグモ	2, 24, 24, 30
<i>Mimetus japonicus</i> Uyemura 1938	ハラヒロセンショウグモ	30
Oecobiidae チリグモ科		
<i>Uroctea compactilis</i> L. Koch 1878	ヒラタグモ	2, 30
Uloboridae ウズグモ科		
<i>Hyptiotes affinis</i> Bös. & Str. 1906	オウギグモ	2, 24, 30
<i>Miagrammopes orientalis</i> Bös. & Str. 1906	マネキグモ	2, 24, 30
<i>Octonoba sybotides</i> (Bös. & Str. 1906)	カタハリウズグモ	2, 24, 30, 36
<i>Octonoba varians</i> (Bös. & Str. 1906)	ウズグモ	2, 2, 24, 24, 30
Nesticidae ホラヒメグモ科		
<i>Nesticella brevipes</i> (Yaginuma 1970)	コホラヒメグモ	30
Theridiidae ヒメグモ科		
<i>Achaeearanea angulithorax</i> (Bös. & Str. 1906)	ツリガネヒメグモ	2, 23, 24, 24, 30
<i>Achaeearanea asiatica</i> (Bös. & Str. 1906)	キヒメグモ	2, 23, 26, 30
<i>Achaeearanea culicivola</i> (Bös. & Str. 1906)	カグヤヒメグモ	2, 19, 23, 24, 30
<i>Achaeearanea ferrumequina</i> (Bös. & Str. 1906)		

	ヒザブトヒメグモ	2, 2, 23, 30
<i>Achaearanea japonica</i> (Bös. & Str. 1906)	ニホンヒメグモ	2, 23, 24, 30
<i>Achaearanea kompirensis</i> (Bös. & Str. 1906)		
	コンピラヒメグモ	2, 23
<i>Achaearanea ryukyu</i> Yoshida 2000	リュウキュウヒメグモ	30
<i>Achaearanea tepidariorum</i> (C. L. Koch 1841)		
	オオヒメグモ	23, 24, 30
<i>Anelosimus crassipes</i> (Bös. & Str. 1906)	アシプトヒメグモ	2, 2, 23
<i>Argyrodes bonadea</i> (Karsch 1881)	シロカネイソウロウグモ	2, 24, 30
<i>Argyrodes cylindratus</i> Thorell 1889	トビジロイソウロウグモ	2, 30
<i>Argyrodes kumadai</i> Chida & Tanikawa 1999		
	チリイソウロウグモ	2, 30
<i>Argyrodes miniaceus</i> (Doleschall 1867)	アカイソウロウグモ	2
<i>Ariamnes cylindrogaster</i> (Simon 1888)	オナガグモ	2, 24, 30, 36
<i>Chrosiothes sudabides</i> (Bös. & Str. 1906)	ヨツコブヒメグモ	2, 23
<i>Chryso albipes</i> (S.Saito 1935)	ギボシヒメグモ	30
<i>Chryso foliata</i> (L.Koch 1878)	ホシミドリヒメグモ	31
<i>Coleosoma blandum</i> O. P.-Cambridge 1882		
	サヤヒメグモ	23, 30
<i>Coleosoma octomaculatum</i> (Bös. & Str. 1906)		
	ヤホシサヤヒメグモ	2, 23, 34, 36
<i>Dipoena punctisparsa</i> Yaginuma 1967	シモフリミジグモ	18, 23, 30
<i>Enoplognatha abrupta</i> (Karsch 1879)	カレハヒメグモ	2
<i>Enoplognatha caricis</i> (Fickert 1876)	ヤマトコノハグモ	2
<i>Enoplognatha lordosa</i> Zhu & Song 1992	コガタコノハグモ	20, 23
<i>Episinus affinis</i> Bös. & Str. 1906	ヒシガタグモ	30, 36
<i>Episinus nubilus</i> Yaginuma 1960	ムラクモヒシガタグモ	30
<i>Keijia mneon</i> (Bös. & Str. 1906)	サトヒメグモ	2, 23
<i>Keijia sterninotata</i> (Bös. & Str. 1906)	ムナボシヒメグモ	2, 23, 30
<i>Moneta mirabilis</i> (Bös. & Str. 1906)	オナガヒシガタグモ	2, 5, 23
<i>Neospintharus fur</i> (Bös. & Str. 1906)	フタオイソウロウグモ	2, 23, 30
<i>Neospintharus nipponicus</i> (Kumada 1990)		
	ツノナガイソウロウグモ	24, 30
<i>Paidiscura subpallens</i> (Bös. & Str. 1906)	ハイイロヒメグモ	2, 18, 23, 30

<i>Phoroncidia pilula</i> (Karsch 1879)	ツクネグモ	2, 30
<i>Phycosoma flavomarginatum</i> (Bös. & Str. 1906)	キベリミジングモ	2, 18, 23, 24, 34
<i>Phycosoma mustelinum</i> (Simon 1888)	カニミジングモ	2, 18, 23, 24, 30, 36
<i>Rhomphaea labiata</i> (Zhu & Song 1991)	ヒゲナガヤリグモ	30
<i>Rhomphaea sagana</i> (Dön. & Str. 1906)	ヤリグモ	2, 23, 24, 30
<i>Spheropistha melanosoma</i> Yaginuma 1957		
	クロマルイソウロウグモ	28
<i>Steatoda erigoniformis</i> (O. P.-Cambridge 1872)		
	ナナホシヒメグモ	2
<i>Stemmops nipponicus</i> Yaginuma 1969	スネグロオチバヒメグモ	24, 30, 36
<i>Takayus chikunii</i> (Yaginuma 1960)	バラギヒメグモ	23, 36
<i>Takayus subadultus</i> (Bös. & Str. 1906)	コケヒメグモ	2, 23, 36
<i>Takayus yunohamensis</i> (Bös. & Str. 1906)	ユノハマヒメグモ	2, 23
<i>Theridion pinastri</i> L. Koch 1872	ムネグロヒメグモ	2
<i>Yaginumena castrata</i> (Bös. & Str. 1906)	ボカシミジングモ	2, 23, 30
<i>Yaginumena mutilata</i> (Bös. & Str. 1906)	コアカクロミジングモ	2
Theridiosomatidae カラカラグモ科		
<i>Ogulnius pullus</i> Bös. & Str. 1906	ヤマジグモ	2
<i>Theridiosoma epeiroides</i> Bös. & Str. 1906	カラカラグモ	2
Anapidae ヨリメグモ科		
<i>Comaroma maculosa</i> Oi 1960	ヨロイヒメグモ	30
<i>Conculus lyugadinus</i> Komatsu 1940	ヨリメグモ	30
Mysmenidae コツブグモ科		
<i>Mysmenella jobi</i> (Kraus 1967)	ナンブコツブグモ	30
Pimoidae ピモサラグモ科		
<i>Weintrauboa contortipes</i> (Karsch 1881)	アシヨレグモ	2, 30, 36
Linyphiidae サラグモ科		
<i>Aprifrontalia mascula</i> (Karsch 1879)	コサラグモ	2
<i>Diplocephaloides saganus</i> (Bös. & Str. 1906)	ハラジロムナキグモ	2
<i>Diplocephalus bicurvatus</i> Bös. & Str. 1906	ムナキグモ	2
<i>Erigone prominens</i> Bös. & Str. 1906	ノコギリヒザグモ	34

<i>Erigone sagicola</i> Dön. & Str. 1906	アシアカヒザグモ	2
<i>Gnathonarium dentatum</i> (Wider 1834)	ヤマアカムネグモ	2
<i>Gnathonarium exsiccatum</i> (Bös. & Str. 1906)	ニセアカムネグモ	2, 36
<i>Hylyphantes graminicola</i> (Sundevall 1830)	クロナンキングモ	2, 2, 30, 36
<i>Linyphia sagana</i> (Dön. & Str. 1906)	サガサラグモ	2
<i>Nematogmus sanguinolentus</i> (Walckenaer 1837)	チビアカサラグモ	34, 36
<i>Neriere albolimbata</i> (Karsch 1879)	ヤガスリサラグモ	2
<i>Neriere brongersmai</i> (Helsdingen 1969)	チビスラグモ	36
<i>Neriere limbatinella</i> (Bös. & Str. 1906)	フタスジサラグモ	2
<i>Neriere longipedella</i> (Bös. & Str. 1906)	アシナガサラグモ	36
<i>Neriere montana</i> (Clerck 1758)	ヤマジサラグモ	2
<i>Neriere nigripectoides</i> (Oi 1960)	ムネグロサラグモ	24, 30, 36
<i>Neriere oidedicata</i> (Helsdingen 1969)	ヘリジロサラグモ	30
<i>Nippononeta projecta</i> (Oi 1960)	ツノケシグモ	30
<i>Ostearius melanopygius</i> (O. P.-Cambridge 1879)	スソグロサラグモ	34
<i>Pelecopsis punctiseriata</i> (Bös. & Str. 1906)	ウスチャズダカグモ	2
<i>Solenysa melloteei</i> Simon 1894	アリマネグモ	30
<i>Syedra oii</i> H. Saito 1983	オオイオリヒメサラグモ	30
<i>Tmeticus bipunctis</i> Bös. & Str. 1906	ヌカグモ	8
<i>Turinyphia yunohamensis</i> (Bös. & Str. 1906)	ユノハマサラグモ	2
<i>Ummeliata feminea</i> (Bös. & Str. 1906)	アトグロアカムネグモ	2
<i>Ummeliata insecticeps</i> (Bös. & Str. 1906)	セスジアカムネグモ	2, 33, 34, 36
<i>Ummeliata osakaensis</i> (Oi 1960)	オオサカアカムネグモ	30
Tetragnathidae アシナガグモ科		
<i>Leucauge blanda</i> (L. Koch 1878)	チュウガタシロカネグモ	2, 24, 30, 36
<i>Leucauge crucinota</i> (Bös. & Str. 1906)	チビシロカネグモ	2, 34
<i>Leucauge magnifica</i> Yaginuma 1954	オオシロカネグモ	24, 30
<i>Leucauge subblanda</i> Bös. & Str. 1906	コシロカネグモ	24, 30
<i>Leucauge subgemmea</i> Bös. & Str. 1906	キララシロカネグモ	2, 24, 30
<i>Meta nigridorsalis</i> Tanikawa 1994	チビクロドヨウグモ	30

<i>Metleucauge kompirensis</i> (Bös. & Str. 1906)	タニマノドヨウグモ	2, 2, 16
<i>Metleucauge yaginumai</i> Tanikawa 1992	キタドヨウグモ	2
<i>Metleucauge yunohamensis</i> (Bös. & Str. 1906)	メガネドヨウグモ	2
<i>Pachygnatha quadrimaculata</i> Bös. & Str. 1906	ヨツボシヒメアシナガグモ	2
<i>Pachygnatha tenera</i> (Karsch 1879)	ヒメアシナガグモ	2
<i>Tetragnatha caudicula</i> (Karsch 1879)	トガリアシナガグモ	2
<i>Tetragnatha maxillosa</i> Thorell 1895	ヤサガタアシナガグモ	2, 24, 24, 30
<i>Tetragnatha praedonia</i> L. Koch 1878	アシナガグモ	2, 24, 30
<i>Tetragnatha squamata</i> Karsch 1879	ウロコアシナガグモ	2, 30, 36
<i>Tylorida striata</i> (Thorell 1877)	キイロハラダカグモ	2
Nephilidae ジョロウグモ科		
<i>Nephila clavata</i> L. Koch 1878	ジョロウグモ	24, 30
<i>Nephylengys malabarensis</i> (Walckenaer 1841)	マラバルジョロウグモモドキ	2
Araneidae コガネグモ科		
<i>Acusilas coccineus</i> Simon 1895	ハツリグモ	30
<i>Alenatea fuscocolorata</i> (Bös. & Str. 1906)	ヤミイロオニグモ	2
<i>Araneus ejusmodi</i> (Bös. & Str. 1906)	ヌサオニグモ	2, 24, 30
<i>Araneus ishizawai</i> Kishida 1928	イシサワオニグモ	31
<i>Araneus mitificus</i> (Simon 1886)	ビジョオニグモ	2
<i>Araneus pentagrammicus</i> (Karsch 1879)	アオオニグモ	30
<i>Araneus pinguis</i> (Karsch 1879)	アカオニグモ	2
<i>Araneus sagicola</i> (Dön. & Str. 1906)	サガノオニグモ	2
<i>Araneus semilunaris</i> (Karsch 1879)	マルツメオニグモ	2
<i>Araniella yaginumai</i> Tanikawa 1995	ムツボシオニグモ	36
<i>Argiope amoena</i> L. Koch 1878	コガネグモ	2, 24, 30
<i>Argiope boesenbergi</i> Levi 1983	チュウガタコガネグモ	2
<i>Argiope bruennichi</i> (Scopoli 1772)	ナガコガネグモ	2, 24, 30
<i>Argiope minuta</i> Karsch 1879	コガタコガネグモ	2, 24, 30
<i>Chorizopes nipponicus</i> Yaginuma 1963	ヤマトカナエグモ	30
<i>Cyclosa alba</i> Tanikawa 1992	シロゴミグモ	30
<i>Cyclosa argenteoalba</i> Bös. & Str.	ギンメッキゴミグモ	2, 17, 24, 30, 36
<i>Cyclosa atrata</i> Bös. & Str. 1906	カラスゴミグモ	2, 17
<i>Cyclosa confusa</i> Bös. & Str. 1906	ミナミノシマゴミグモ	17

<i>Cyclosa ginnaga</i> Yaginuma 1959	ギンナガゴミグモ	30
<i>Cyclosa japonica</i> Bös. & Str. 1906	ヤマトゴミグモ	17, 30
<i>Cyclosa laticauda</i> Bös. & Str. 1906	キジロゴミグモ	2, 17, 30
<i>Cyclosa monticola</i> Bös. & Str. 1906	ヤマゴミグモ	2, 17, 36
<i>Cyclosa octotuberculata</i> Karsch 1879	ゴミグモ	24, 30, 36
<i>Cyclosa omonaga</i> Tanikawa 1992	シマゴミグモ	17, 24, 30
<i>Cyclosa psylla</i> (Thorell 1887)	ヒメマルゴミグモ	2, 17
<i>Cyclosa sedeculata</i> Karsch 1879	ヨツデゴミグモ	2, 24, 30
<i>Cyrtarachne bufo</i> (Bös. & Str. 1906)	トリノフンダマシ	2, 24, 30
<i>Cyrtarachne inaequalis</i> Thorell 1895	オオトリノフンダマシ	24, 30
<i>Cyrtarachne nagasakiensis</i> Strand 1918	シロオビトリノフンダマシ	30
<i>Cyrtarachne yunoharuensis</i> Strand 1918	アカイロトリノフンダマシ	30
<i>Cyrtophora moluccensis</i> (Doleschall 1857)	スズミグモ	28, 30
<i>Eriophora astridae</i> (Strand 1917)	サガオニグモ	2
<i>Eriophora sachalinensis</i> (S. Saito 1934)	カラフトオニグモ	21, 36
<i>Eriovixia pseudocentrodes</i> (Bös. & Str. 1906)		
	トガリオニグモ	2
<i>Gasteracantha kuhli</i> C. L. Koch 1837	トゲグモ	2
<i>Hypsosinga pygmaea</i> (Sundevall 1831)	ヨツボシシヨウジョウグモ	2
<i>Larinia argiopiformis</i> Bös. & Str. 1906	コガネグモダマシ	2, 24, 30, 36
<i>Mangora herbeoides</i> (Bös. & Str. 1906)	ゴマジロオニグモ	2
<i>Neoscona adianta</i> (Walckenaer 1802)	ドヨウオニグモ	2, 30
<i>Neoscona melloteei</i> (Simon 1895)	ワキグロサツマノミダマシ	2, 24, 30
<i>Neoscona nautica</i> (L. Koch 1875)	イエオニグモ	30
<i>Neoscona punctigera</i> (Doleschall 1857)	コゲチャオニグモ	2, 24, 30
<i>Neoscona scylla</i> (Karsch 1879)	ヤマシロオニグモ	30
<i>Neoscona scylloides</i> (Bös. & Str. 1906)	サツマノミダマシ	2, 24, 30
<i>Neoscona subpullata</i> (Bös. & Str. 1906)	ヘリジロオニグモ	2
<i>Paraplectana japonica</i> Bös. & Str. 1906	トラマルグモ	2
<i>Poltys illepidus</i> C. L. Koch 1843	ゲホウグモ	30
<i>Yaginumia sia</i> (Strand 1906)	ズグロオニグモ	30, 36
	Lycosidae コモリグモ科	
<i>Arctosa depectinata</i> (Bös. & Str. 1906)	カガリビコモリグモ	2, 12
<i>Arctosa ipsa</i> (Karsch 1879)	ヒノマルコモリグモ	2, 11, 30, 36
<i>Arctosa stigmosa</i> (Thorell 1875)	クロコモリグモ	2, 12
<i>Lycosa coelestis</i> L. Koch 1878	ハラクロコモリグモ	2, 2
<i>Lycosa pia</i> (Bös. & Str. 1906)	ムナグロオオコモリグモ	2, 10

<i>Pardosa astrigera</i> L. Koch 1878	ウツキコモリグモ	2, 14, 30
<i>Pardosa laura</i> Karsch 1879	ハリゲコモリグモ	2
<i>Pardosa lyrivulva</i> (Bös. & Str. 1906)	コンピラコモリグモ	2, 15
<i>Pardosa pseudoannulata</i> (Bös. & Str. 1906)		
	キクツキコモリグモ	2, 2, 13
<i>Pirata clercki</i> (Bös. & Str. 1906)	クラークコモリグモ	2, 9, 30, 36
<i>Pirata meridionalis</i> Tanaka 1974	ミナミコモリグモ	9
<i>Pirata piratoides</i> (Bös. & Str. 1906)	イモコモリグモ	2, 9
<i>Pirata procurvus</i> (Bös. & Str. 1906)	チビコモリグモ	2, 9, 30
<i>Pirata subpiraticus</i> (Bös. & Str. 1906)	キバラコモリグモ	9
Pisauridae キシダグモ科		
<i>Dolomedes fimbriatoides</i> Bös. & Str. 1906	スジチャハシリグモ	2
<i>Dolomedes pallitarsis</i> Dön. & Str. 1906	スジプトハシリグモ	2, 36
<i>Dolomedes raptor</i> Bös. & Str. 1906	アオグロハシリグモ	30
<i>Dolomedes sulfureus</i> L. Koch 1878	イオウイロハシリグモ	2, 30, 36
<i>Perenethis fascigera</i> (Bös. & Str. 1906)	ハヤテグモ	30
Oxyopidae ササグモ科		
<i>Oxyopes koreanus</i> Paik 1969	コウライササグモ	37
<i>Oxyopes macilentus</i> L. Koch 1878	シマササグモ	30
<i>Oxyopes saganus</i> Bös. & Str. 1906	コササグモ	2
<i>Oxyopes sertatus</i> L. Koch 1878	ササグモ	24, 30
Ctenidae シボグモ科		
<i>Anahita fauna</i> Karsch 1879	シボグモ	2, 30
Agelenidae タナグモ科		
<i>Agelena labyrinthica</i> (Clerck 1758)	イナズマクサグモ	2
<i>Agelena silvatica</i> Oliger 1983	クサグモ	2, 24, 30
<i>Agelena opulenta</i> L. Koch 1878	コクサグモ	2, 24, 30
Hahniidae ハタケグモ科		
<i>Hahnica corticicola</i> Bös. & Str. 1906	ハタケグモ	2
<i>Hahnica martialis</i> Bös. & Str. 1906	ミヤシロハタケグモ	2
Dictynidae ハグモ科		
<i>Dictyna felis</i> Bös. & Str. 1906	ネコハグモ	2
<i>Dictyna procerula</i> Bös. & Str. 1906	チャボハグモ	2
<i>Lathys annulata</i> Bös. & Str. 1906	カレハグモ	2
<i>Lathys maculosa</i> (Karsch 1879)	ヤマトカレハグモ	2
Amaurobiidae ガケジグモ科		
<i>Asiacoelotes insidiosus</i> (L. Koch 1878)	シモフリヤチグモ	2
<i>Coelotes exitialis</i> L. Koch 1878	ヤチグモ	2

<i>Coelotes micado</i> Strand 1907	ミカドヤチグモ	32
<i>Paracoelotes luctuosus</i> (L. Koch 1878)	メガネヤチグモ	2
<i>Tegeocoelotes corasides</i> (Bös. & Str. 1906)	ヤマヤチグモ	2
Miturgidae ツチフクログモ科		
<i>Cheiracanthium digitivorum</i> Dön. & Str. 1906	ムナアカコマチグモ	2
<i>Cheiracanthium japonicum</i> Bös. & Str. 1906	カバキコマチグモ	2
<i>Cheiracanthium kompiricola</i> Dön. & Str. 1906	ヒナコマチグモ	2
<i>Cheiracanthium unicum</i> Bös. & Str. 1906	ヤサコマチグモ	2, 30
Anyphaenidae イツツグモ科		
<i>Anyphaena pugil</i> Karsch 1879	イツツグモ	2
Liocranidae ウエムラグモ科		
<i>Itatsina praticola</i> (Bös. & Str. 1906)	イタチグモ	2, 30
Clubionidae フクログモ科		
<i>Clubiona corrugata</i> Bös. & Str. 1906	コフクログモ	2
<i>Clubiona jucunda</i> (Karsch 1879)	ヤハズフクログモ	2, 30
<i>Clubiona kurilensis</i> Bös. & Str. 1906	ヒメフクログモ	2
<i>Clubiona lena</i> Bös. & Str. 1906	トビイロフクログモ	2, 36
<i>Clubiona neglectoides</i> Bös. & Str. 1906	ヨモギフクログモ	2
<i>Clubiona vigil</i> Karsch 1879	ムナアカフクログモ	2
<i>Clubiona zilla</i> Dön. & Str. 1906	ウコンフクログモ	2
Corinnidae ネコグモ科		
<i>Cycais gracilis</i> Karsch 1879	シカイスグモ	2
<i>Orthobula crucifera</i> Bös. & Str. 1906	オトヒメグモ	2, 30, 36
<i>Phrurolithus nipponicus</i> Kishida 1914	ウラシマグモ	36
<i>Phrurolithus pennatus</i> Yaginuma 1967	ヤバネウラシマグモ	29
<i>Trachelas japonicus</i> Bös. & Str. 1906	ネコグモ	2, 24, 30
Zodariidae ホウシグモ科		
<i>Asceua japonica</i> (Bös. & Str. 1906)	ドウシグモ	2
Gnaphosidae ワシグモ科		
<i>Cladothela oculinotata</i> (Bös. & Str. 1906)	チャクロワシグモ	2, 4
<i>Cladothela unciinsignita</i> (Bös. & Str. 1906)	ムナキワシグモ	2, 4
<i>Drassodes depilosus</i> Dön. & Str. 1906	アカクロワシグモ	2
<i>Gnaphosa kompirensis</i> Bös. & Str. 1906	メキリグモ	2, 36
<i>Hitobia asiatica</i> (Bös. & Str. 1906)	シノノメトンビグモ	2
<i>Hitobia unifascigera</i> (Bös. & Str. 1906)	ヒトオビトンビグモ	2

<i>Pterotricha saga</i> (Dön. & Str. 1906)	クロテオノグモ	2
<i>Sernokorba pallidipatellis</i> (Bös. & Str. 1906)	マエトビケムリグモ	2
<i>Urozelotes rusticus</i> (L. Koch 1872)	カバキケムリグモ	2
<i>Zelotes asiaticus</i> (Bös. & Str. 1906)	クロチャケムリグモ	2, 22
Selenopidae アワセグモ科		
<i>Selenops bursarius</i> Karsch 1879	アワセグモ	2
Sparassidae アシダカグモ科		
<i>Heteropoda invicta</i> (L. Koch 1878)	ミユピアシダカグモ	2
<i>Heteropoda venatoria</i> (Linnaeus 1758)	アシダカグモ	2, 30
<i>Sagellula octomunita</i> (Dön. & Str. 1906)	タソガレグモ	2
<i>Sinopoda stellatops</i> Jäger & Ono 2002	ヒメアシダカグモ	3, 36
<i>Stasina japonica</i> Bös. & Str. 1906	カブラヤグモ	2
<i>Stasina maculifera</i> Dön. & Str. 1906	ゴマフカブラヤグモ	2
<i>Thecticopis severa</i> (L. Koch 1875)	カマスグモ	2
Philodromidae エビグモ科		
<i>Philodromus aureolus</i> (Clerck 1758)	コガネエビグモ	2
<i>Philodromus auricomus</i> L. Koch 1878	キンイロエビグモ	2, 2, 36
<i>Philodromus margaritatus</i> (Clerck 1758)	ブチエビグモ	2
<i>Philodromus nigrostriatipes</i> Bös. & Str. 1906	フシグロエビグモ	2
<i>Philodromus spinatarsis</i> Simon 1895	キハダエビグモ	2, 36
<i>Philodromus subaureolus</i> Bös. & Str. 1906	アサヒエビグモ	2
<i>Thanatus miniaceus</i> Simon 1880	ヤドカリグモ	36
<i>Thanatus nipponicus</i> Yaginuma 1969	ヤマトヤドカリグモ	30
<i>Tibellus tenellus</i> (L. Koch 1876)	シャコグモ	2, 24, 30
Thomisidae カニグモ科		
<i>Bassaniana decorata</i> (Karsch 1879)	キハダカニグモ	2
<i>Coriarachne fulvipes</i> (Karsch 1879)	コカニグモ	2, 30
<i>Cupa typica</i> Bös. & Str. 1906	タルグモ	2, 7
<i>Diaea subdola</i> O. P.-Cambridge 1885	コハナグモ	2, 30, 36
<i>Heriaeus melloteei</i> Simon 1886	アシナガカニグモ	30
<i>Misumena munitissima</i> Dön. & Str. 1906	アオハナグモ	2
<i>Misumena vatia</i> (Clerck 1758)	ヒメハナグモ	2
<i>Misumenops tricuspidatus</i> (Fabricius 1775)	ハナグモ	2, 30
<i>Oxytate striatipes</i> L. Koch 1878	ワカバグモ	24, 30, 36
<i>Ozyptila nipponica</i> Ono 1985	ニッポンオチバカニグモ	6

<i>Pistius undulatus</i> Karsch 1879	ガザミグモ	2, 30
<i>Runcinia acuminata</i> (Thorell 1881)	トガリシロスジグモ	30
<i>Runcinia albostriata</i> Bös. & Str. 1906	シロスジグモ	2
<i>Synema globosum</i> (Fabricius 1775)	フノジグモ	36
<i>Thomisus labefactus</i> Karsch 1881	アズチグモ	2, 24, 30
<i>Tmarus piger</i> (Walckenaer 1802)	トラフカニグモ	2, 30, 36
<i>Xysticus atrimaculatus</i> Bös. & Str. 1906	ホンクロボシカニグモ	2, 6, 7
<i>Xysticus croceus</i> Fox 1937	ヤミイロカニグモ	36
<i>Xysticus ephippiatus</i> Simon 1880	カラカニグモ	2, 7, 25
<i>Xysticus saganus</i> Bös. & Str.	オオヤミイロカニグモ	2, 7, 30
<i>Xysticus transversomaculatus</i> Bös. & Str. 1906	ヨコフカニグモ	2, 7
Salticidae ハエトリグモ科		
<i>Carrhotus xanthogramma</i> (Latreille 1819)	ネコハエトリ	2, 30
<i>Evarcha albaria</i> (L. Koch 1878)	マミジロハエトリ	2, 27, 30
<i>Evarcha flavocincta</i> (C. L. Koch 1848)	フィッシャーハエトリ	2
<i>Harmochirus insulanus</i> (Kishida 1914)	ウデプトハエトリ	2, 24, 27, 36
<i>Hasarius adansoni</i> (Audouin 1897)	アダンソンハエトリ	2
<i>Laufeia aenea</i> Simon 1888	エクスハエトリ	2
<i>Marpissa pulla</i> (Karsch 1879)	ヨダンハエトリ	2, 30
<i>Mendoza canestrinii</i> (Ninni in Canestrini & Pavesi 1868)	オスクロハエトリ	2, 30, 36
<i>Mendoza elongata</i> (Karsch 1879)	ヤハズハエトリ	2, 30
<i>Menemerus fulvus</i> (L. Koch 1878)	シラヒゲハエトリ	2, 27
<i>Myrmarachne inermichelis</i> Bös. & Str. 1906	ヤサアリグモ	2
<i>Myrmarachne japonica</i> (Karsch 1879)	アリグモ	27
<i>Pancorius crassipes</i> (Karsch 1881)	アシプトハエトリ	2, 27, 30
<i>Phintella abnormis</i> (Bös. & Str. 1906)	チャイロアサヒハエトリ	2
<i>Phintella arenicolor</i> (Grube 1861)	マガネアサヒハエトリ	2
<i>Phintella bifurcilinea</i> (Bös. & Str. 1906)	キアシハエトリ	2, 27, 30
<i>Phintella castriesiana</i> (Grube 1881)	ワカバネコハエトリ	2
<i>Phintella linea</i> (Karsch 1879)	メガネアサヒハエトリ	2, 36
<i>Phintella versicolor</i> (C. L. Koch 1846)	メスジロハエトリ	2, 30
<i>Plexippoides doenitzii</i> (Karsch 1879)	デーニッツハエトリ	2, 24, 27, 30, 36
<i>Plexippus paykulli</i> (Audouin 1827)	チャスジハエトリ	2, 27, 30
<i>Plexippus setipes</i> Karsch 1879	ミスジハエトリ	2, 24, 30

<i>Pseudicius vulpes</i> (Grube 1861)	イナズマハエトリ	2, 2, 36
<i>Rhene atrata</i> (Karsch 1881)	カラスハエトリ	2, 30
<i>Sibianor pullus</i> (Bös. & Str. 1906)	キレワハエトリ	2
<i>Siler cupreus</i> Simon 1888	アオオビハエトリ	2, 27, 30
<i>Sitticus avocator</i> (O. P.-Cambridge 1885)	ヒトリハエトリ	2
<i>Sitticus penicillatus</i> (Simon 1875)	シラホシコゲチャハエトリ	2
<i>Sitticus saevus</i> Dön. & Str. 1906	ボケチャハエトリ	2
<i>Sitticus saganus</i> Dön. & Str. 1906	クロボケハエトリ	2
<i>Synagelides annae</i> Bohdanowitz 1979	オオクマアメイロハエトリ	30

引用文献

- 1 . Blignoli, P. 1974. On some Oonopidae from Japan and Formosa (Araneae). Acta Arachnol., 25:73-85.
- 2 . Bösenberg, W. & Strand, E. 1906. Japanische Spinnen. Abh. Senckenb. Naturf. Ges. 30:93-422.
- 3 . Jäeger, P. & Ono, H. 2002. Sparassidae of Japan. 2. First *Pseudopoda* species and new *Sinopoda* species (Araneae: Sparassidae: Hetropodinae). Acta Arachnol., 51:109-124.
- 4 . Kamura, T. 1991. A revision of the genus *Cladothela* (Araneae: Gnaphosidae) from Japan. Acta Arachnol., 40:47-60.
- 5 . Okuma, C. 1994. Spiders of the genera *Episinus* and *Moneta* from Japan and Taiwan, with descriptions of two new species of *Episinus* (Araneae: Theridiidae). Acta Arachnol., 43:5-25.
- 6 . Ono, H. 1985. Revision einiger arten der familie Thomisidae (Arachnida, Araneae) aus Japan. Bull. Natn. Sci. Mus. Tokyo, 11:19-39.
- 7 . Ono, H. 1988. A revisional study of the spider family Thomisidae (Arachnida, Araneae) of Japan. 252p. National Science Museum, Tokyo.
- 8 . Saito, H. & Ono, H. 2001. New genera and species of the spider family Linyphiidae (Arachnida, Araneae) from Japan. Bull. Natn. Sci. Mus, 27:1-59.
- 9 . Tanaka, H. 1988. Lycosid spiders of Japan I. The genus *Pirata* Sundevall. Acta Arachnol., 36:33-77.
- 10 . Tanaka, H. 1990. Lycosid spiders of Japan III. The genus *Lycosa* Latreille. Sonoda Womens' College Studies, 24:193-213.
- 11 . Tanaka, H. 1990. Lycosid spiders of Japan IV. The genus *Tricca* Simon. Acta Arachnol., 39:21-26.
- 12 . Tanaka, H. 1991. Lycosid spiders of Japan VII. The genus *Arctosa* C.L.Koch. Sonoda Womens' College Studies, 25:289-316.
- 13 . Tanaka, H. 1993. Lycosid spiders of Japan IX. The genus *Pardosa* C.L.Koch. Sonoda Womens' College Studies, 27:261-318.

- 14 . Tanaka, H. 1993. Lycosid spiders of Japan XI. The genus *Pardoda* C.L.Koch. Acta Arachnol., 42:159-171.
- 15 . Tanaka, H. 1993. Lycosid spiders of Japan XII. The genus *Pardoda* C.L.Koch. Acta Arachnol., 42:173-179.
- 16 . Tanikawa, A. 1992. A revision of the Japanese spiders of the genus *Metteucauge* Levi, 1980 (Araneae: Tetragnathidae). Acta Arachnol., 41:161-175.
- 17 . Tanikawa, A. 1992. A revisional study of the Japanese spiders of the genus *Cyclosa* Menge (Araneae: Araneidae). Acta Arachnol., 41:11-85.
- 18 . Yoshida, H. & Ono, H. 2000. Spiders of the genus *Dipoena* (Araneae, Theridiidae) from Japan. Bull. Natn. Sci. Mus., Tokyo, 26:125-158.
- 19 . Yoshida, H. 2000. The spider genus *Achaearana* (Araneae: Theridiidae) from Japan. Acta Arachnol., 49:137-153.
- 20 . Yoshida, H. 2001. The spider genera *Robertus*, *Enoplognatha*, *Steatoda* and *Crustulina* (Araneae: Theridiidae) from Japan.. Acta Arachnol., 50:31-48.
- 21 . 奥津伸二 1957. カラフトオニグモ九州に産する. Atypus, 12: 19.
- 22 . 加村隆英 1984. 日本のワシグモ類 (). Atypus, 85: 1-8.
- 23 . 吉田 哉 2003. 日本産ヒメグモ科総説 . 日本蜘蛛学会, 223p.
- 24 . 吉田 真 2006. 東京蜘蛛談話会佐賀合宿 (2005年7月30日~8月1日) で採集されたクモ . くものいと , 39 : 29-32 .
- 25 . 小野展嗣 1981. シナカニグモの分布と系統 . Kishidaia, 47:69-75.
- 26 . 松本誠治 1973. キヒメグモ (*Achaearana asiatica*) について. Atypus, 61: 9-14.
- 27 . 松本誠治 1977. 湯ノ原および金刀比羅神社 (佐賀県) のハエトリグモ. Atypus, 69: 3-15.
- 28 . 新海 明・谷川明男 2000 . 採集情報 . 遊絲,7:15-16.
- 29 . 新海 明・谷川明男 2005 . 採集情報 . 遊絲 , 17 : 12-15 .
- 30 . 新海 明・谷川明男 2005 . 東京蜘蛛談話会 2005 年度合宿報告 佐賀県湯の原・金刀比羅神社周辺のクモ . Kishidaia, 88:82-89.
- 31 . 新海 明・谷川明男 2006 . 採集情報 . 遊絲 , 18:12-14 .
- 32 . 西川喜朗 1974.日本産のヤチグモ属 (*Coelotes*) 総説. 追大文紀,8:174-182.
- 33 . 大熊千代子 1958. セスジアカムネグモの生態. Acta Arachnol., 15:21-23.
- 34 . 池田勇介 2006 . 佐賀合宿追加記録 . kishidaia, 89:68 .
- 35 . 入江照雄 2001 . オダカユウレイグモについて . Kishidaia,80:7-20 .
- 36 . 馬場友希 2006. 佐賀県で採集したクモ . Kishidaia , 90 : 33-36.
- 37 . 八木沼健夫・新海栄一 1977. 分布資料. Atypus, 70: 43.

長野県クモ類目録（第2報）

藤澤庸助

筆者が「長野県クモ類目録」（2004）を報じた後に、各氏から心温まるご指摘を頂いた。拙速な報によって、誤解や混乱を招きかねない部分があったことをお詫びする。

指摘されたそれらの標本、および筆者が疑問や不安を感じていた標本を改めて見直し、不明の場合は下記の各氏に同定を依頼した。併せて不明種として保管していた標本や、その後に採取した種も併せて同定を願った。

西川喜朗氏をはじめ、井原庸、小野展嗣、加村隆英、斎藤博、新海栄一、田中穂積、谷川明男、徳本洋、林俊夫、吉田哉の各氏には、同定を快くお引き受けいただいた。その際に多くの方々から分類等に関するご教示や、文献またはそのコピーの恵与を賜った。それらの文献等は同定の際に非常に役立つものとなった。井原氏には、長野県未記録種の標本もいただいた。池田博明氏には自著の恵与を賜り、同定する際に生態的な知見を重ねることによって、種の確信が持てたものがあった。全てをふくめて上記の方々には厚く感謝御礼を申し上げる。

以上の結果をもとに、まず、筆者の誤同定による削除すべき記録と、真正の種の採集記録を記した。次いで、長野県産として初記録となる種42種を記した。その項に、故千国安之輔先生によって同定されていたにもかかわらず、不明種にまぎれていたものも加えた。

また、筆者が標本を未所有のまま地方誌などから拾い出した種で、その後の同定によって生息を確認した6種と稀産種1種（和名の頭に・印を付す）は再度記した。上記以外の既報の種は割愛する。採集地籍名は合併前のものを使用した。2004年以降、転科、転属となったものがあるが、その後も諸説が提唱されているので、2004年当時の所属とした。

なお、ガケジグモ科（ヤチグモ類）の大部分とハエトリグモ科全種までは見直しが及ばなかったため、残っている他科の種や今後の県内新記録種とともに追って報じたい。

既に掲載した種の削除・訂正および追加

オオスギヤミサラグモ 削除；疑問との指摘あり、標本なし。

クロテナガグモ（千国図鑑掲載種）訂正；全て Linyphiidae spp.（斎藤氏同定）。

- ダイセツサラグモ 訂正；？を取る．ハヶ岳産は真正種であることを確認．
追加；♀：31- -2006．爺が岳 標高 2,300m前後（以上藤澤同定）．
- アシヨレグモ 削除；標本遺失のため正体不明．
真正種；*Weintrauboa contortipes* (Karsch 1881)
♀：23- -2004．北安曇郡小谷村大網の林内（斎藤氏同定）
- シバサラグモ 削除；？♀3．．1987．東部町東入烏帽子岳登山道（誤同定）
真正種；♀：11-5-2005．南佐久郡南相木村三尺（藤澤同定）．
- クサチゴマガモ 削除；♂♀24．．1997．上田市塩田中禅寺（誤同定）．
真正種；♂：29- -2004．南佐久郡南相木村立原高原別荘地（斎藤氏同定）．
- シロブチサラグモ 削除；？♀4．．1984．軽井沢三度山，？♀18．．1989．南相木村御座山，♀6．．1984．小海町稲子の湯，♀14．．1985．東部町三方が峰 ♀5．．1997．八千穂村雨池，♀7．．1988．丸子町塩川陣馬山，♂♀29．．1986．東部町湯の丸高原，（以上誤同定）．
真正種；上記以外の記録（藤澤同定）．
- ハシグロナンキングモ 削除；日本産未記録種と思われる．
- ツノケシグモ 削除；？♀8．．1999．八千穂村麦草峠（誤同定）．
真正種；♂♀：8- -1979．飯田市松川入伐採跡地のササ原（斎藤氏同定）．
- アリマネグモ 全て削除；（誤同定）．
- ギンナガゴミグモ 訂正；全てクマダギンナガゴミグモ *Cyclosa kumadai* Tanikawa 1992（徳本氏同定）．
- コマチグモ属 訂正；属名の *Chiracanthium* を *Cheiracanthium* に．

長野県において初記録 および標本が確保できた種

ユウレイグモ科 Pholcidae

イエユウレイグモ *Pholcus phalangioides* (Fuesslin 1775)

♂：25- -2005．飯山市北町（関口信夫氏採取，藤澤同定）．

アケボノユウレイグモ *Spermophora akebona* Komatsu 1961

♂：16- -2004．南佐久郡南相木村上栗生魚止林道のゴウロ中，♀：2005- -21．南佐久郡南相木村奥三川鍾乳洞内（以上藤澤同定）．

ヒメグモ科 Theridiidae

・チクニヒメグモ *Neottiura margarita* (Yoshida 1985)

♀：18- -2004．小県郡真田町傍陽 ジャガイモの葉裏．

ハラナガヒシガタグモ *Moneta caudifera* (Dönitz & Strand 1906)

♂♀：5- -2003．南佐久郡南相木村村道臨幸線，♀：2003- -19．南相木村村道

- 臨幸線, ♀: 5- -2004. 南相木村小沢林道中土線 (以上藤澤同定) .
- オガタモリヒメグモ *Robertus ogatai* Yoshida 1995
♀: 24- -1984. 北佐久郡軽井沢町 資料館上の林内 (斎藤氏同定) .
- ヤマトミジグモ *Trigonobothrys japonicus* (Yoshida 1985)
♂: 28- -1994. 小県郡真田町角間溪谷の岩壁面 (藤澤同定) .
- サラグモ科 Linyphiidae
- サイトウコブヌカグモ *Ainerigone saitoi* (Ono 1991)
♂♀: 24- -1997. 上田市東塩田中禅寺の独鈷山登山口 (斎藤氏同定) , ♀: 25- -2004. 南佐久郡南相木村立原高原のブッシュ中 (斎藤氏同定) .
- ザラアカムネグモ *Asperthorax communis* Oi 1960
♀: 11- -2005. 南佐久郡南相木村三尺の広葉樹林内 (斎藤氏同定) , ♂: 5- -2003. 南相木村臨幸線のリター中 , ♀: 5- -2004. 南相木村小沢林道中土線 (以上藤澤同定) .
- ヒメウスイロサラグモ *Asthenargus matsudae* H.Saito & Ono 2001
♀: 5- -1984. 北佐久郡軽井沢町碓氷峠, 見晴台下の林内 (斎藤氏同定) .
- ニホンウスイロサラグモ *Asthenargus nipponius* H.Saito & Ono 2001
♂♀: 4- -1983. 北佐久郡軽井沢町碓氷峠 (斎藤氏同定) .
- オノツノサラグモ *Eldonia kayaensis* (Paik 1965)
♀: 27- -2003. 南佐久郡南相木村栗生、御座山登山道標高約 1,400m 付近の草原 (斎藤氏同定) .
- クロヒザグモ *Erigone atra* (Blackwall 1841)
♂♀: 18- -2003. 南佐久郡南相木村日向土岩の畑の地表 (斎藤氏同定) .
- ナミズキンヌカグモ *Gongylidioides communis* H.Saito & Ono 2001
♀: 5- -2004. 南佐久郡南相木村小沢林道白土 1 号作業道 , ♂: 17- -2005. 南佐久郡南相木村林道相木川上線の側溝中 (以上斎藤氏同定) .
- ・キヌキリグモ *Herbiphantes cericeus* (S.Saito 1934)
♂: 7- -1984. 南佐久郡御座山南相木村側 (千国氏同定) , ♂: 18- -1989. 南佐久郡御座山北相木村側 (藤澤同定) .
- アズミヤセサラグモ *Himalaphantes azumiensis* (Oi 1980)
♂: 6- -1984. 南佐久郡小海町鹿の湯周辺 (千国氏同定) .
- ヤセサラグモ属一種 *Lepthyphantes alacris* (Blackwall 1853)? (要精査)
♂: 5- -1999. 南佐久郡八千穂村雨池の池畔 (斎藤氏同定) .
- ハガタヤセサラグモ *Lepthyphantes clarus* Oi 1960
♂: 9- -1979. 飯田市松川ダム湖畔アカマツ - コナラ林のリター中 (斎藤氏同定) .
- クボミケシグモ *Lepthyphantes concavus* (Oi 1960)
♀: 10- -2005. 南佐久郡南相木村日向 県道脇のリター中 (斎藤氏同定) .
- サンディバルコサラグモ *Maso sundevalli* (Westring 1881)
♂: 15- -2005. 南佐久郡南相木村天狗山山頂付近標高約 1,880m (斎藤氏同定) .

- クサチゴマゲモ *Micrargus herbigradus* (Blackwall 1854)
♂: 29- -2004. 南佐久郡南相木村立原高原貸しロッジ周辺のリター中 (斎藤氏
同定) .
- コノハサラゲモ *Microneta viaria* (Blackwall 1841)
♀: 24- -1984. 北佐久郡軽井沢町, 資料館上の林内 (斎藤氏同定) . ♂: 11- -2005 .
南佐久郡南相木村三尺広葉樹林のリター中 (斎藤氏同定) .
- カイケシグモ *Nippononeta kaiensis* Ono & H.Saito 2001
♀: 8- -1999. 南佐久郡八千穂村麦草峠 (斎藤氏同定) .
- カントウケシグモ *Nippononeta kantonis* Ono & H.Saito 2001
♀: 22- -2000. 上高井郡高山村中山の放置されたリンゴ畑の草むら中 (斎藤氏
同定) .
- ヒロテゴマゲモ *Pseudomicrargus latitegulatus* (Oi 1960)
♂♀: 5- -1984. 北佐久郡軽井沢町碓氷峠見晴台下の広葉樹林中 (藤澤同定) .
- ヤマトオオイヤマケシグモ *Ryojius yaponicus* H.Saito & Ono 2001
♂: 7- -1979. 飯田市松川組合林道の標高約 1,100m 地点 (斎藤氏同定) .
- ヤマトマルサラゲモ *Saaristoa nipponica* (H.Saito 1984)
♀: 24- -1984. 北佐久郡軽井沢町, 資料館上の林内 (斎藤氏同定) .
- カワグチココヌカゲモ *Saitonia kawaguchikonis* H.Saito & Ono 2001
♂♀: 5- -1984. 北佐久郡軽井沢町上発地, 馬取湿原 (斎藤氏同定) .
- ニシキサラゲモ *Taranucnus nishikii* Yaginuma 1972
♀1: 19- -2001. 南安曇郡穂高町有明観音峠 (井原氏採取および標本提供) .
- オノアカムネゲモ *Ummeliata onoi* H.Saito 1993
♂♀: 5- -2004. 南佐久郡南相木村小沢林道白土 1 号作業道 (斎藤氏同定) .
- チョビヒゲヌカゲモ近似種 *Walckenaeria* sp.
♂: 23- -1985. 南相木村奥三川大黒沢 (Eskov と Marusik によって, 日本・
韓国・中国・モンゴル等から記録されている *W. Antica* は, 真正の *W. Antica*
ではないことが指摘されている. 斎藤氏同定およびコメント) .
- オオクマコブヌカゲモ *Walckenaeria chiyokoae* H.Saito 1988
♂: 31- -2004. 南佐久郡南相木村祝平, 木材集積場のカラマツ樹皮が堆積した
間 (斎藤氏同定) .
- フタエツノヌカゲモ *Walckenaeria keikoeae* H.Saito 1988
♀: 11- -2005. 南佐久郡南相木村三尺広葉樹林のリター中 (斎藤氏同定) .
- コガネゲモ科 Araneidae
- マルヅメオニゲモ *Araneus semilunaris* (Karsch 1879)
♀: 7- -2006. 小県郡真田町傍陽岡保向山 林道をまたいで地上約 3 m に造網 .
- ・チュウガタコガネゲモ *Argiope boesenbergi* Levi 1983
♀: 14- -2006. 長野市七二会市場 市道脇斜面の低草木間 .
- ・サガオニゲモ *Eriophora astridae* (Strand 1917)
♀: 21- -2004. 小県郡真田町傍陽のスギ-コナラ林 (藤澤同定)

- ・トゲグモ *Gasteracantha kuhli* C.L.Koch 1837
♂y: 23- -2004 . 北安曇郡小谷村大網のヤブツバキ林内 (藤澤同定) .
コモリグモ科 Lycosidae
- ・カラフトコモリグモ *Trochosa terricola* Thorell 1856
♀: 31- -2004 . 南佐久郡南相木村祝平カラマツ集材および皮むき場(藤澤同定) .
ミヤマシボグモ科 Zoridae
- ミヤマシボグモモドキ *Zora nemoralis* (Blackwall 1861)
♂: 17- -2005 . 南佐久郡南相木村林道相木川上線 側溝のリター中(藤澤同定)
ナミハグモ科 Cybaeidae
- コナミハグモ *Cybaeus aquilonalis* Yaginuma 1958
♀: 14- -2001 . 上高井郡高山村奥山田鎌田川の沢 (井原氏同定) .
- ヨシアキナミハグモ *Cybaeus yoshiakii* Yaginuma 1968
♂: 1- -1980 . 飯田市松川入篝沢 砂防ダムの上 (井原氏同定) .
- ・キリガミネナミハグモ *Dolichocybaeus kirigaminensis* (Komatsu 1963)
♂: 3- -1997 . 南佐久郡八千穂村雨池 (小野氏, 井原氏同定) .
- オオダイガハラナミハグモ *Cybaeus hatsushibai* Ihara 2005
♂♀: 7- -1984 . 南佐久郡御座山 (南相木村側) 標高 1,800~2,000m (生殖器の形態にやや変異あり . 井原氏同定およびコメント) .
ウエムラグモ科 Liocranidae
- カムラタンボグモ *Agroeca kamurai* Hayashi 1992
♂♀: 6- -2001 . 上高井郡高山村中原 広葉樹林内および放棄リンゴ園内 (井原氏同定) .
- ミヤマタンボグモ *Agroeca montana* Hayashi 1986
♂: 5- -1984 . 北佐久郡軽井沢町碓氷峠見晴台下の広葉樹林内および大塩温泉上の広葉樹林内 (加村氏同定) .
フクログモ科 Clubionidae
- ヤマトコマチグモ *Cheiracanthium lascivum* Karsch 1879
♂: 1- -2006 & 6- -2006 . 飯山市北町 (関口信夫氏採取, 藤澤同定) .
- タテヤマフクログモ *Clubiona tateyamensis* Hayashi 1989
♂: 5- -2006 . 真田町菅平高原根子岳中腹 標高約 1,950mの登山道脇クマイザサ間 (林氏同定) .
ワシグモ科 Gnaphosidae
- ナミトンビグモ *Sanitubius anatolicus* (Kamura 1989)
♀: 12- -1993 . 真田町傍陽岡保区向山山頂 標高約 950m (藤澤同定) .

参考文献

- Komatsu, T. 1961. Cave Spiders of Japan, Their Taxonomy, Chorology and Ecology. 91p .
信濃教育会出版部 .
- Oi, R. 1960 . Linyphiid Spiders of Japan . J. Inst. Polytech. Osaka City Univ., 11:137-244

- Oi, R. 1964. A Supplementary Note on Linyphiid Spiders of Japan . J. Biol. Osaka City Univ., 15:23-30.
- 八木沼健夫 1986 . 原色日本クモ類図鑑 . 305p . 保育社 .
- Yaginuma, T. 1979. A Study of the Japanese Species of Nesticid Spiders. Fac. Let. Rev. Otomon Gakuin Univ., 13:255-287.
- 千国安之輔 1989 . 写真日本クモ類大図鑑 . 308p . 偕成社 .
- Roberts, M. J. 1995. Spiders of Britain & Northern Europe. 308p . Harper Collins.
- Namkung, J. 2001. The Spiders of Corea. 648p. Kyo-Hak Publishing.
- 池田博明編 1687. クモ生理生態事典 . 173p . 編者自刊 .
- Tanaka, H. 1988. Lycosid Spiders of Japan II. The genus *Trochosa* C. L. KOCH. Acta Arachnol. , 36 : 93-113 .
- Hayashi, T. 1989. Four New Species of the Genus *Clubiona* (Araneae: Clubionidae) from Japan. 八木沼健夫教授退職記念論文集, 103-110. 大阪クモ学研究者グループ .
- 加村隆英 2000-2004. 同定指南ワシグモ科 (その 1 ~ その 7) . くものいと , No.27-35
- 吉田 哉 2003. 日本産ヒメグモ科総説 . 223p . 日本蜘蛛学会 .
- 谷川明男 2005. 日本産クモ類目録 (2005 年版) . Kishidaia , 87:127-187.
- 谷川明男・安藤昭久・新海 明 2006. 県別クモ類分布図 Ver.2006b. 著者自刊 CD .
- Ihara, Y. 2004. Description of large- and medium-sized species of the genus *Cybaeus* (Araneia: Cybaeidae) from the Tohoku district, northern Honshu, Japan. Acta Arachnol., 53:35-51.
- 新海栄一 2006. ネイチャーガイド日本のクモ . 336p . 文一総合出版 .
- 藤澤庸助 2004. 長野県クモ類目録 . Kishidaia, 85 : 47-101.
- 藤澤庸助 2006. クモ類目録 . 南相木の自然 , 資料編 . 南相木村誌刊行会 , p. 125-139 .

後継者募集

キシダイアは、MSワードで作成し、レーザープリンタでプリントアウトしたものを印刷屋さんへ渡してそのまま印刷してもらっています。こちらで版下まで作成することによって制作費を低く抑え、厚いものを発行することが可能になっています。この版下作成作業の後継者を探し始めます。通信のほうは、同じ作成方法で、レーザープリンタで印刷まで行います。こちらでも自分で作ってしまうので作成費が低く抑えられます。このキシダイア版下作成、ならびに談話会通信作成の後継者を募集します。今はたまたまキシダイアも通信も一人でやっていますが、別々の担当者がいて当然ですから、キシダイアをやる、あるいは、通信をやる、といったお申し出も大歓迎です。引継ぎは気長に考えており、2016年くらいまでにごなたかやってくたさる方が現われればなあと思っています。2016年には私は60歳となり、かなり作業能力が低下してしまうものと思しますので、それまでに引き継ぐことができればと思います。もちろん、すぐに現れても喜んでお譲りします。応募資格は、キシダイアや通信を作ることを楽しめる方です。あと、自由に使えるコンピュータとプリンタとが身近にあり、ワープロソフト、画像処理ソフトが操作できる必要があります。作業は決して楽なものではなく、時間も結構とられますし、年に2号作らなければならないというノルマもあります。しかし、作る楽しみは十二分に味わえます。いろいろと工夫をして会誌を作り上げることはとても楽しい作業です。その楽しい作業をいつまでも独り占めにしないで私にやらせてくれという方からのご連絡をお待ちしております。

谷川明男

東京蜘蛛談話会

運営委員

石島 力・今井 正巳・池田 博明・小野 展嗣・木村 知之・甲野 涼・新海 明・
谷川 明男・萩本 房枝・初芝 伸吾・安田 明雄

会 長：新海 栄一 185-0011 東京都国分寺市本多 1-6-6

本 部：小野 展嗣 169-0073 東京都新宿区百人町 3 - 23 - 1

国立科学博物館動物研究部

会誌編集：木村 知之 192-0917 東京都八王子市西片倉 2-6-16 ラベニール 210
(原稿送付先) 池田 博明 258-0018 神奈川県足柄上郡大井町金手 1099

E-mail: fwgd9084@mb.infoweb.ne.jp

(版下作成) 谷川 明男

通信編集：谷川 明男 247-0007 横浜市栄区小菅ヶ谷 1-4-2-1416

E-mail: dp7a-tnkw@j.asahi-net.or.jp

事務局：初芝 伸吾 186-0002 東京都国立市東 3-11-18-203 (有)エコシス

E-mail: hatsushiba-ecosys@h8.dion.ne.jp

会 計：安田 明雄 231-0861 横浜市中区元町 5-219

E-mail: kobato@gol.com

郵便振替：00170-8-74885 東京蜘蛛談話会(年会費一般 3,800円 学生 2,000円)

会計監査：笠原喜久雄・梅林 力

KISHIDAIA No.91 2007年2月28日 印刷 編集者 木村知之

2007年2月28日 発行 発行者 新海栄一

発行所 東京蜘蛛談話会

東京都新宿区百人町 3 - 23 - 1 国立科学博物館動物研究部 小野展嗣方

印刷 有限会社 相模プロセス 神奈川県相模原市淵野辺 2 - 15 - 27

K I S H I D A I A

Bulletin of Tokyo Spider Study Group

No.91 , Feb. 2007

— 目 次 —

奥村賢一：雲仙山系におけるイシサワオニグモの垂直分布	1
新海 明：コガネヒメグモの飼育観察（新海栄一氏による報告の抄録）	3
西野真由子：造網場所から探るジョロウグモの産卵部位選択	7
新海 明：ジョロウグモ大爆発！	13
加藤むつみ：トゲグモの飼育記録から分かる事：成長と寿命	15
新海 明：イソウロウグモ類のホストの一覧	21
笹岡文雄：東京 23 区におけるキシノウエトタテグモの生息地点	34

D R A G L I N E S

高津佳史：ムツトゲイセキグモを静岡県三島市で観察	39
高津佳史：4年目のジグモ	39
奥村賢一：ミヤグモの単眼欠失個体	40
笹岡文雄：他の個体の廃巢を利用したキシノウエトタテ	41
馬場友希：季節はずれのチュガタシロカネグモの採集例	41
平野健一：福島県でニシキオニグモの採集記録報告	42
< 目録ドラッグライنز >	
仲條竜太・植松いのり：伊豆諸島新島のクモ II	42
仲條竜太：八丈小島のクモ	43
馬場友希：徳之島で採集したクモ	43
馬場友希：熊本県で採集したクモ	44
馬場友希：奄美大島で採集したクモ	46
馬場友希：四国（高知県・愛媛県）で採集したクモ	47
馬場友希：福岡県能古島のクモ	49
新海 明・谷川明男：文献による佐賀県産クモ類目録	57
藤澤庸助：長野県クモ類目録（第2報）	70